

2017年度

事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE
神戸女学院

日本を代表する「キリスト教主義

森前理事長の任期満了に伴い、2018年度より飯理事長が就任しました。それぞれが抱く神戸女学院への「思い」とは――。

「日々使い続けながら守る」 重要文化財のあり方を考える

神戸女学院は、自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」から派遣された二人の女性宣教師によって、1875年（明治8年）、神戸に設立されました。2017年には、創立142周年を迎えました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に、現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。

2014年9月には、岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計によ

る12棟の建物が、国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財 神戸女学院」です。自然や景観を含めて、岡田山キャンパスが重要文化財指定の対象になったのだと理解しています。

重要文化財に指定されたほとんどの建物は、現在も日々の教育のために使われています。日常的に活用しながら文化財として保存していく難しさはありますが、新たな重要文化財のあり方のモデルとなることができるよう、今後も「キャンパス・デザイン」の策定に努力いたします。

多様な場面で活躍する在学生や 卒業生が本学院の「ブランド」に

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現してい

ます。キリスト教を基本とする全人教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を自分のためだけに用いるのではなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる女性を養成すること、これが神戸女学院の教育目標です。

大学は教育目標として、さらに具体的に、「日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学」となることを掲げています。リベラルアーツ教育によって、分野横断的に、複数の視点からの学びを行い、多様な分野で活躍できる女性を育成することを目指しています。2017年度から、リベラルアーツ教育を実現するための、新たなカリキュラムを始めました。

中高部は関西における最難関校の一つと評価され、毎年、顕著な大学入学試験の実績を残しています。しかし、入試実績を公表していません。大学入試実績は神戸女学院中高部の教育の結果であって、神戸女学院中高部教育の目的ではないと考えているからです。

勉学と諸活動の両立を実現している中高部生は、その存在自体が「神戸女学院ブランド」そのものと言えるでしょう。

皆さまの温かなご支援が 8年間の支えに

私事、2017年度末の任期満了をもって、理事長・院長を退任し、神戸女学院を退職いたしました。

2010年より二期8年間の在任でしたが、教職員・卒業生・保護者の皆さまをはじめ、多くの方々のご支援によって無事に任期を満了することができました。心より御礼申し上げます。

飯謙新理事長・院長のもと、さらに充実した教育の実現を目指す神戸女学院へのご支援を、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

学校法人 神戸女学院
前理事長・前院長

森、孝一



得た知識や技術を活かし
世界に貢献できる女性へ

「リベラルアーツ教育」を目指して

在学中だけでなく、人生すべてを支えられる教育機関であるために

私自身が神戸女学院でキリスト教学の教鞭を執ることになって35年。その中で感じてきたのは、神戸女学院には学問・社会・共同体において自分がどうあるべきかをよく悩み、よく考える姿勢の生徒や学生が非常に多いということです。能動性、積極性、自発性を持って自問することは在学中だけでなく、生涯にわたって生きる“力”になります。キリスト教は「歴史の宗教」であり、人々が長い世代の中で培ってきたものに光を当ててきました。生涯にわたって問い続ける姿勢を身につけること、そこから得たものを未来につなげていくこと。こうした力を学び得られる環境は、まさに神戸女学院のキリスト教主義が育んできたものの一つです。つまり卒業後も続く長い人生を支えられる真の教育を提供することこそ、神戸女学院の使命なのです。

しなやかでありながら「筋を通す」ことで世に尽くす

女性のライフステージは人生の中で大きく変化します。時代とともに社会も激しく様変わりし続けています。そんな中、時代の潮流に流されることなく、自分の信念を持って生きることの大切さは、今後ますます重要性を増していくことでしょう。信念を持って生きるとは、決して一つの考えに凝り固まることではありません。常に目の前にあることに誠実に向き合いながら、自分の“筋”を通していくということだと私は考えます。それは隣人に仕えることを語る「キリスト教主義」に加え、相互理解を目指す「国際理解の精神」、自発的な学修力を養う「リベラルアーツ」といった神戸女学院の教育の根幹と密接につながっていると言えるでしょう。

重要文化財にも指定されている現在の岡田山キャンパスは、建物一つひとつの

「変わらない」ために「変わり続ける」



デザインはよく似ていますが、各部屋の大きさや造りは個々に異なります。個別でありながらも、それぞれが回廊でつながられています。この校舎群はそこで生活する人を、互いに尊敬し合い、受け入れ合い、愛し合う、キリスト教的な人間観と教育観による人格形成へと導いています。国際理解の精神もリベラルアーツの理念も含め、キャンパスそのものが建学の精神を身体の一部となるように考えられているのです。

自分であり続けるためには、常に変わり続ける必要がある

神戸女学院は2025年に創立150周年を迎えます。卒業生が人生に迷ったときや悩んだときに立ち戻り、道標が見つかる場所であり続けられるようにと、美しいキャンパスとそこに流れる“空気”が守られてきました。しかし「変わらない」ためには、「変わり続ける」ことが必

要です。大学は2012年に教育・研究充実のための具体的な道程表を掲示し、2017年度からは全学部横断的な新しいカリキュラムをスタート。中高部は受験に特化させない勉学と諸活動の充実とその両立をもって建学の精神を見るかたちに行っています。さらにこれらの目標達成に向けた環境整備に努めました。2018年度からは創立150周年に向けて新たなキャンパス計画を進めて参ります。

今後も生徒・学生を生涯にわたって支えられる教育の充実を支える同労者として、神戸女学院に対しまして皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人 神戸女学院
理事長・院長





リベラルアーツ教育を柱に、
新たな学びの場を創出



主体的・積極的な学びや
グローバルな挑戦を支援

2017年度よりリベラルアーツ教育を柱とした新カリキュラムがスタートしました。2018年問題（大学進学者減少）対策として、ワーキンググループを中心に3年以上かけて検討を重ねてきたカリキュラムです。そのうちのひとつである、教員・学生が全学科を横断し一つのテーマを深めていく「クローバーゼミ」を通して、新しい学びへの全学的な意識も高まっています。

また、他学科の専門授業を受講できる「副専攻プログラム」一期生に対して修了証書が授与されました。

そして広報として、4件の車内広告を阪急電鉄、JRに掲出しました。本学のタグラインである【私はまだ、私を知らない。】のもと「学問は、就活か。」「労働は、時間か。」「人生は、いつだって途中だ。」「女は大学に行くな、」の文字だけの広告に世間の注目が集まり、多くの賛同の感想が寄せられました。本学が伝統の上に新しい変革に向かっていくこと、またその方向性に期待が集まっていることを実感しています。

この3月には本学の提携校である米国サムヒューストン州立大学との合同オペラ（「ディドとエネアス」英語上演）で、音楽学部選抜学生9人が渡米し、公演はスタンディングオベーションをもって大成功を収めました。学生は積極的に現地に溶け込み、本学の英語教育とリベラルアーツ教育の成果が結びついた交流となりました。

神戸女学院大学 学長

青藤言子

中高部では恵まれた学習・自然環境の中でリベラルアーツ教育を展開し、生徒一人ひとりに主体的かつ積極的な学びの機会を提供しています。中学部では全員が同じカリキュラムで基礎固めをし、高等学部では自由選択の授業で興味ある分野の知識・技能を深めています。総合学習「探究」では各生徒がテーマ設定し、自由に研究を深め、レポートにまとめて発表し、成果をあげています。また、宗教部主催の修養会や白熱教室等で、授業で学んだテーマについての社会参加、講演者への質問や有志での議論等の体験を通して学びを深化させています。

グローバルな挑戦の機会も多く提供しています。2017年7月開催の第3回エンパワーメント・プログラムでは、女性のリーダーシップについて英語でディスカッションやプレゼンをして、語学力のみならず表現力・協働性・思考力の面でも目覚ましい成果を挙げました。2017年7月から8月に3週間の訪米語学研修旅行が実施され、24名の生徒がSt.Croix Lutheran Schoolsで語学研修や文化体験をしました。短期や長期の留学を経験する生徒、海外派遣プログラムで参加メンバーに選ばれる生徒、数学やリベラルアーツ的知識・技能を競う国際大会に日本代表として参加する生徒もおり、リーダーシップを発揮しています。

神戸女学院 中学部・高等学部 部長

林真理子

- 1 理事長メッセージ
- 3 大学メッセージ／
中高部メッセージ
- 5 建学の理念・教育目標／
設置学校・学部・学科等／沿革

2017年度の取り組み

- 7 大学
私はまだ、私を知らない。
- 9 大学
「リベラルアーツ教育」をカタチに
- 11 中高部
学習の場を広げ、「生き方」を学ぶ。
- 13 環境整備
- 15 環境整備／学習環境／学生支援／職員支援
- 17 KOBE COLLEGE AND SOCIETY
- 19 神戸女学院の2017年度の取り組み

神戸女学院 基本データ

- 21 入学定員・収容定員・在籍者数
- 22 在籍者数推移
- 23 志願者数・合格者数・入学者数
- 24 留学
- 26 卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、
博士学位授与の状況
- 27 就職・進学状況
- 29 役員・評議員／教職員
- 30 事務組織図

財務の概要

- 31 2017年度決算の概要
- 32 事業活動収支計算書
- 34 資金収支計算書
- 36 貸借対照表
- 38 財務比率の推移

2018年度事業計画

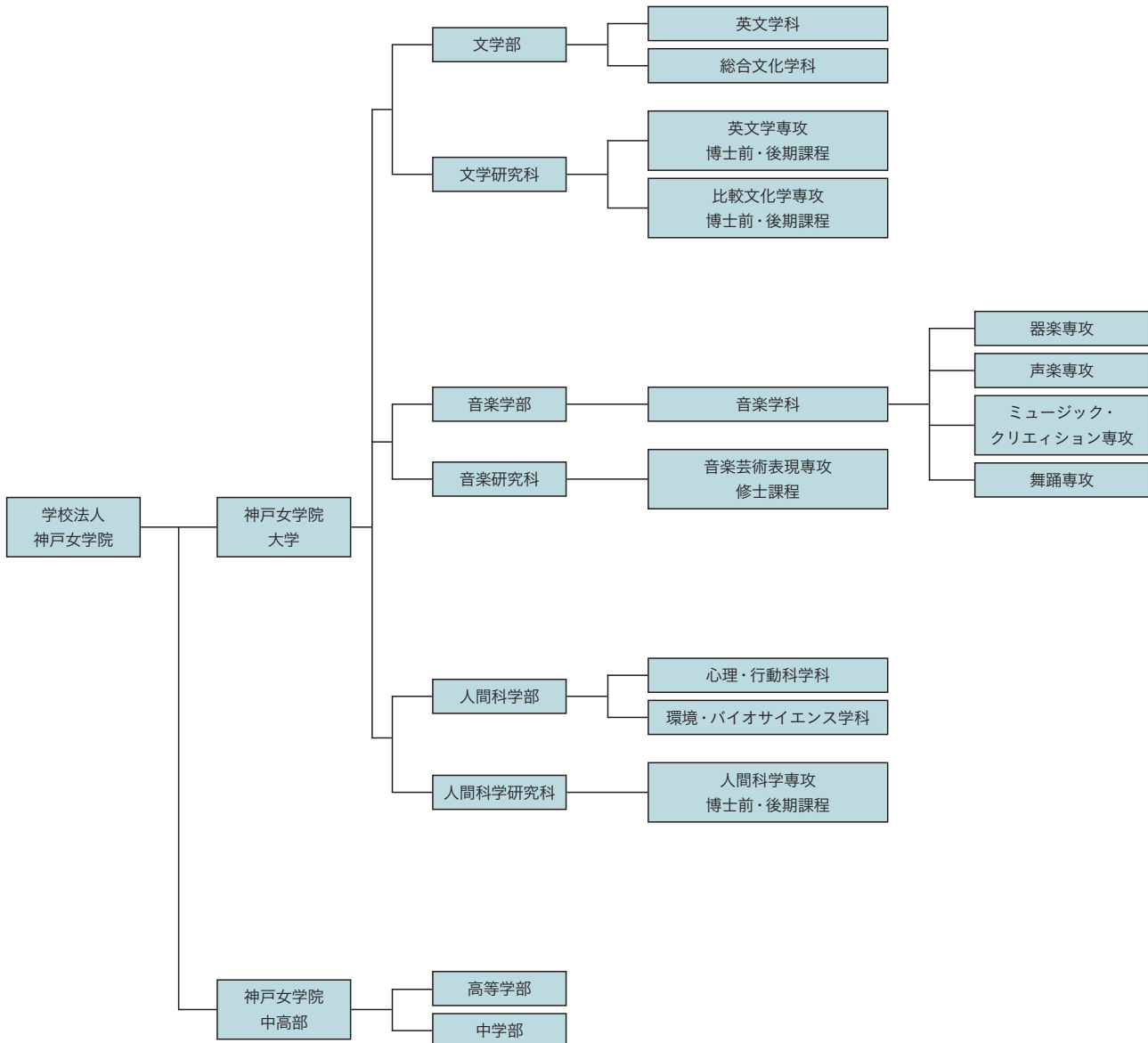
- 39 今後の運営方針及び
2018年度事業計画
- 40 2018年度予算書
- 41 数字で見る神戸女学院
- 42 校地・校舎

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広

い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



学校法人 神戸女学院の沿革

- 1873年(明治6年) 米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。
- 1875年(明治8年) 創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
- 1879年(明治12年) 校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。
- 1885年(明治18年) 高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
- 1891年(明治24年) 本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
- 1894年(明治27年) 「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
- 1906年(明治39年) 教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
- 1909年(明治42年) 専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
- 1919年(大正8年) 日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「大学部」と称することを認められる。予科1年・本科3年を置く。
- 1933年(昭和8年) 西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリスによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
- 1947年(昭和22年) 学制改革により新制中学部設置認可。
- 1948年(昭和23年) 新制高等学部設置認可。4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
- 1949年(昭和24年) 新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
- 1965年(昭和40年) 大学院文学研究科(修士課程) 英文学、社会学専攻を設置。
- 1967年(昭和42年) 家政学科が独立して家政学部となる。
- 1975年(昭和50年) 創立100周年を迎える。
- 1976年(昭和51年) 文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
- 1980年(昭和55年) 大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。
- 1989年(平成元年) 大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
- 1990年(平成2年) 音楽専攻科を設置。
- 1993年(平成5年) 家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
- 1997年(平成9年) 大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
- 1999年(平成11年) 大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
- 2000年(平成12年) 創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化学専攻に改称。
- 2002年(平成14年) 大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
- 2004年(平成16年) 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
- 2005年(平成17年) 人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
- 2006年(平成18年) 音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
- 2007年(平成19年) 音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
- 2013年(平成25年) 大学院文学研究科社会学専攻を廃止。
- 2014年(平成26年) 岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
- 2015年(平成27年) 創立140周年を迎える。大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。

大学

18歳で将来を決めるのは、
きっとまだ早い。

まだ社会を知らない。世界を知らない。
興味がありすぎて絞れないなら、
全部やってみればいい。
「自分でも何になりたいかわからない」というひと、
大学で学び、視野を広げてからでも遅くない。
神戸女学院大学なら、それができる。



私はまだ、私を知らない。

リベラルアーツは、
「無知の知」からはじまる。

「自分は知らない」と自覚することから、
「知りたい」という欲求は生まれる。
神戸女学院大学の学びは、
ただ「モノゴトを知る」という
表面的なことではなく、
『私はまだ知らない。だから、知ろうとし続ける。』
卒業後も人生の指針となる、
一生ものの姿勢を身につけるということ。





**「まだ知らない自分に挑む」
本学の魅力をタグラインに。**

本学がずっと大切にしてきた「リベラルアーツ教育」——。それは、視野を広げて学ぶことで、自分の可能性を見つけること。それは、学びを楽しみ、生涯にわたって学び続ける姿勢を身につけること。社会のあり方が大きく変化するこの時代にこそ、リベラルアーツ教育が育む力が心豊かに生きる“糧”になるはず。2017年度、本学の価値を発信するブランディング活動において改めて「リベラルアーツ教育」にフォーカスしました。



自分でもまだ知らない、未知の才能や可能性。

大学生は、まだまだ伸びる。
きっと、まだ自分でも知らないポテンシャルがある。
そういう意味でも、将来を決めるのは、まだ早い。
もっと試行錯誤する時間がある。
神戸女学院大学で学ぶことで、いままで気づけなかった、
新たな可能性に気づいてほしい。

「知ってる」って閉じてしまわないほうが、
世界も、自分も、きっと広がっていく。
「私はまだ、私を知らない。」

「リベラルアーツ教育」をカタチに

ブランド価値としてフォーカスした「リベラルアーツ教育」の魅力を
タグラインをはじめ、様々なカタチで発信。学内外から多くの反響が集まりました。

ブランド価値を発信するためのタグラインを制定

女は大学に行くな、
という時代があった。専業主婦が当然だったり。寿退社が前提だったり。
時代は変わる、というけれど、いちばん変わったのは、女性を決めてきた
重力かもしれない。いま、女性の目の前には、いくつもの選択肢が広がっている。
そのぶん、あたらしい迷いや葛藤に直面する時代でもある。「正解がない」。
その不確かさを、不安ではなく、自由として謳歌するために。私たちは、学ぶこと
ができる。この、決してあたりまえではない幸福を、どうか忘れずに。たいせつに。

私はまだ、私を知らない。
神戸女学院大学
1948年3月25日、神戸女学院大学は最初の新制大学12校のひとつとして認可されました。

本学の強みや魅力といったブランド価値を
広く社会に発信することを目的に、学びを表
現するタグライン「私はまだ、私を知らない。」
を制定しました。このタグラインをPRするた
めに2つの施策を実施しました。学外向けに
2017年6月と11月、そして2018年3月と
4月に交通広告（電車内広告）を掲出。学内
（学生）向けには2017年9月に、タグライン
が意味する本学での学びについて紹介した
リーフレットを発行しました（2018
年度の新入生にも入学式にて配付）。



リーフレット

交通広告については、過去のデザ
イン（校舎を中心としたビジュアル）
とは異なり、文字のみにしたことも
あり、多くの反響が寄せられました。

反響の声

神戸女学院大学の電車の広告、
あまりにも心動かされるものが
あって撮ってしまった。

大学としての矜持を
感じる。かっこいい。

「変化を恐れるか、歓迎するか」って
いう言葉。目が覚めた気がします。

久しぶりに広告の言葉で
魂を揺さぶられた。

母校の今年の車内広告が、
母校らしくて素敵。

大学ホームページを 全面リニューアル

大学ホームページの全面リ
ニューアルを行いました。トップ
ページには本学での学びを表
す動画を配置し、インパクトの
あるイメージにする一方、全
ページにわたってスクールカ
ラーを強調した配色とし、伝統
も取り入れていることがデザ
イン上の特徴です。また、これ
まで実現できていなかったスマ
ートフォン対応も行いました。



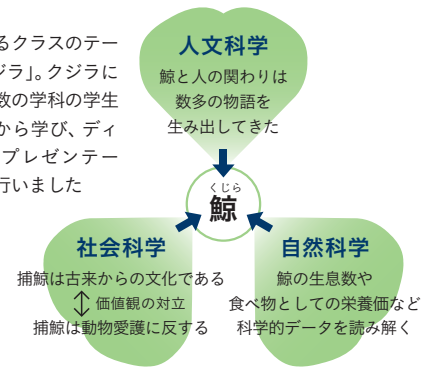
リベラルアーツを育む充実したカリキュラム



クローバーゼミで気づく「つなげる」楽しさ

2017年度から新カリキュラム「クローバーゼミ」が本格始動しました。このゼミは、人文・社会・自然の3領域の教員のもとで学科を超えて学ぶ新しい形式の授業です。他学科生との新たな関係構築による異なる価値観への気づき、新しい知識獲得とそれらをつなげることによる発見など、様々なものを「つなげる」ことによる驚きと楽しさに気づくことができ、学生達は刺激を受けたようです。

例えばあるクラスのテーマは「クジラ」。クジラについて複数の学科の学生が3領域から学び、ディベートやプレゼンテーションを行いました



反響の声

違う学科の学生と知り合えて、友達の輪を広げることができてよかった。

一つの話について人文、社会、自然の、三方向から考えることが面白かった。

ディベートやプレゼンなど、経験したことがないことができて楽しかった。

実地で学ぶプロジェクト科目「神戸女学院を創る」

「神戸女学院のキャンパスづくりやその改善に貢献する、あるいは神戸女学院生の学生生活を保障しその向上に貢献するものであること」を目的に、プロジェクト科目(全学オープン科目)として「神戸女学院を創る」がスタートしました。2017年度は、キャンパス内の施設内環境を改善することを目的としたAクラスと、校舎建築について深く理解した学生を育成することを目的としたBクラスの2クラスが開講されました。

●「神戸女学院を創る」Aクラス

科学的な根拠に基づいて、学生自らが学内の施設環境を改善するにはどのようにすればよいのかを考えることが出来ることを目指します。「神戸女学院内の水道水の安全性」と題して、学内の水道水を広く採取し、細菌が検出された場合はその改善方法を探ります。

●「神戸女学院を創る」Bクラス

岡田山キャンパス移転に至る歴史とヴォーリス設計による校舎群について学びます。キャンパスや、関連諸施設の見学実習を通して、学院の歴史や建築についての理解を深め、研修内容を一般公開時の見学者に伝えるスキルを身につけることも目指します。



図書館新館の「神戸女学院の100冊」コーナー

リベラルアーツの学びを深める「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

自分の専門分野に止まらず、さらに関心を広げて学ぶための基本図書として「神戸女学院の100冊」が推薦されています。この中から1冊を選んで書評を書く「神戸女学院の100冊」書評コンテストが開催されました。2017年度で3回目となるコンテストには、本学学生と提携校の高校生から72作品が寄せられ、8名の各賞受賞者が選ばれました。受賞者には賞状、副賞とともに、審査に当たった教員からそれぞれの書評についての講評が渡されました。



教室を飛び出して自由なスタイルで学びながら、「答えのない問題」に向き合う楽しさを実感します



中学部
高等学部

学習の場を広げ、 「生き方」を学ぶ。

自ら問いを立て、多様な力を駆使して考えを深め、正解を発見するという主体的・積極的な学びを幅広い社会活動につないでゆく：新しい価値を創造し、多様性を受容する力を育む多彩なプログラムを実施しました。



計画立案、情報収集、発表表現など、 探究で「主体的に学ぶ力」を身につける

中学1年次では本に親しみ、調べ方・まとめ方・発表方法の基礎を学びます。さらに個人研究、グループ研究、グループ討議などを通じて様々な力を総合的に身につけるプログラムも実施しています。中学2年次と高等学部1年次では、約半年をかけて個人研究を行います。興味があることをテーマに設定し、様々な方法で行った調査・考察結果をレポートにまとめ、グループで発表。優秀作は、礼拝の時間に全校生徒の前での発表が行われました。発表を行うことで、多くの生徒が刺激を受けています。とくに優秀な探究については文化祭やキャンパス見学会で紹介され、好評を得ました。

その他に、各学年の特別プログラム（文楽鑑賞、英語劇鑑賞、講演会など）も実施し、多様な学びの機会を提供しています。



宗教強調週間～白熱教室 「生きること・学ぶこと」

中高部では宗教強調週間期間中に放課後特別プログラムとして「白熱教室」を開催しています。2017年度は、朝の礼拝でもご奉仕いただいた近藤紘子氏と森孝一院長（当時）、2名の卒業生を講師として招き、語り合いの時をもちました。また、「ジョガトーク!!」と題して、自治会主催で生徒が学年を超えて語り合う時もちました。どの会も大勢の参加があり、熱心に語り合う「白熱教室」らしい光景が見られました。慌ただしい毎日を送っている生徒たちのために、今後もこうした語らひの機会、立ち止まって考える機会を大切にしていきたいです。

修養会・広島訪問～平和学習 平和を実現する者となるために

中高部では、2010年度から修養会の一つとして「広島訪問」を実施してきました。2日間のプログラムの柱は、広島女学院高等学校との交流会です。広島で生きる者の使命として、核兵器廃絶を訴え、署名活動や被爆証言の記録活動を展開する姿は大きな刺激になっています。2016年度からは金城学院も加わり、3校での交流会となりました。それぞれの地に建てられたキリスト教主義学校で学ぶ者が共に礼拝を守り、平和について意見を交わした経験が、神様に遣わされた場所での使命や役割といったものに真摯に向き合う機会になっていることを学びました。



一人ひとりが 進路を主体的にデザインする キャリアガイダンス・プログラム

キャリアガイダンス・プログラムでは、自分に与えられた使命と賜物をどのように用い、許された人生をどのように主体的にデザインしていくかを生徒たちがじっくり考えることを大切にしています。なぜなら生徒は一人ひとり違う「神様の手作り」であり、画一的な進路指導はあり得ないからです。このプログラム名の“キャリア”とは狭義の職業を指すのではなく、人生の道筋・自分の歩む途を表します。一人ひとりの生徒が自分自身と隣人の幸せを実現するためのライフデザインをサポートしています。

学校にいながら米国大学留学！ 習った英語を活用できる エンパワーメント・プログラム

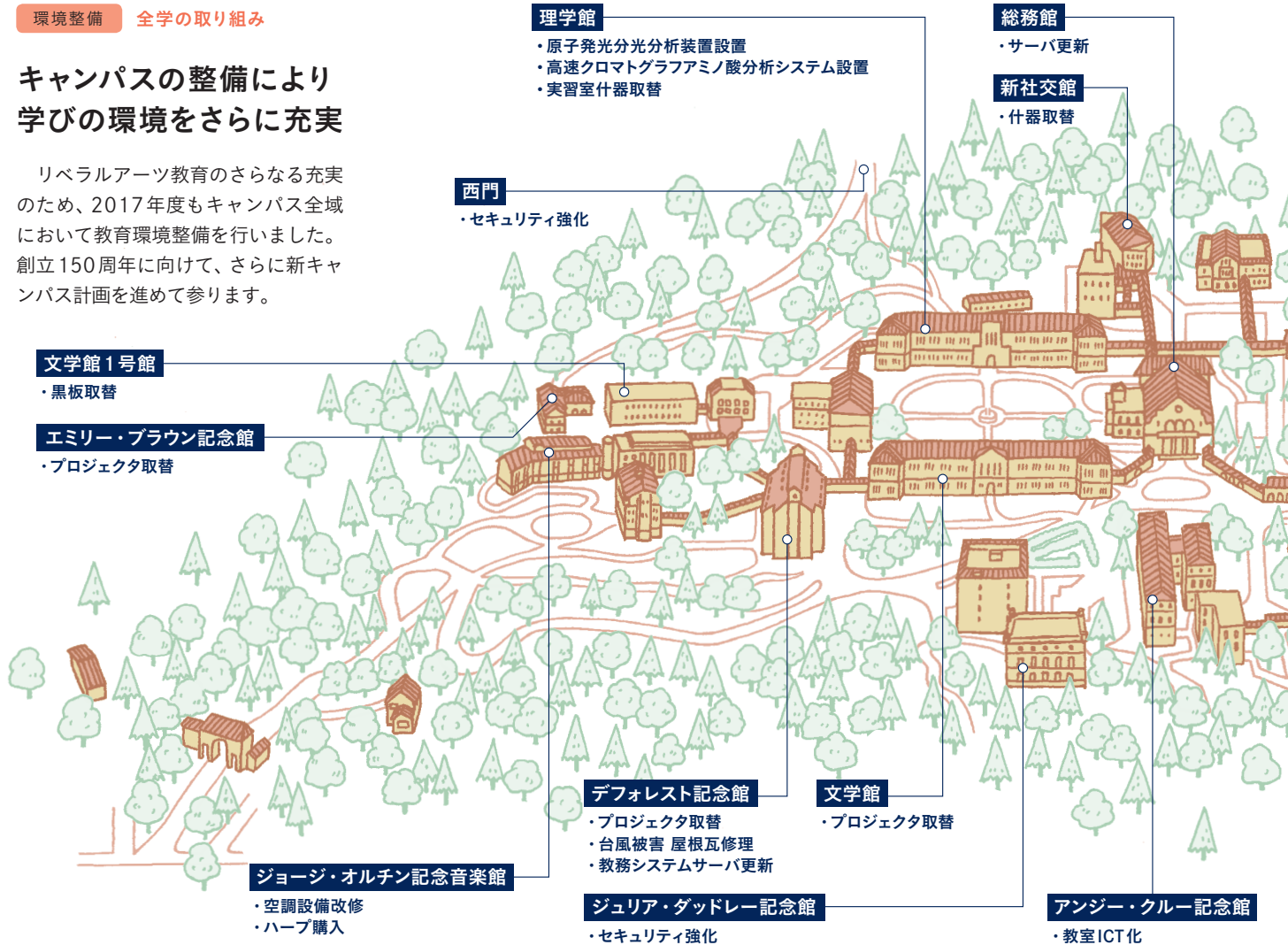
アメリカの名門大学に通う優秀な女子大学生をリーダーに招き、ディスカッションやプレゼンテーションを通して「自分の将来に何が必要か」を考え、気づき、行動する人になることを目指すプログラムです。5日間すべて英語で行われ、参加生徒の英語4技能の向上に役立っています。少人数でのディスカッションをリードしてくれる大学生たちは、参加生徒にとって「自分もこうりたい」と思えるロール・モデルとなり、生徒は大いに刺激を受けることができました。



環境整備 全学の取り組み

キャンパスの整備により 学びの環境をさらに充実

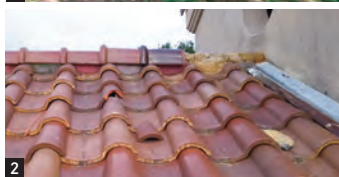
リベラルアーツ教育のさらなる充実のため、2017年度もキャンパス全域において教育環境整備を行いました。創立150周年に向けて、さらに新キャンパス計画を進めて参ります。



環境整備 全学の取り組み

台風21号および22号被害復旧工事が完了

2017年10月に発生した台風21号、22号により本学院も甚大な被害を受けました。キャンパス内各所において屋根瓦の落下や軒樋の破損、建物内への雨水の浸入などが発生しました。また強風により多くの樹木も被災し、倒木や落下枝が校内各所に散らばり大変な状況でした。被害発生の日朝より学内外関係者による懸命の復旧作業が始まりましたが、重要文化財を含む複数建物の修理は以後数か月間続きました。中でもデフォレスト記念館の屋根瓦修理は大規模なものとなり、建物周囲に足場を設置しながら広範囲にわたって割れた瓦の葺き替えが行われ、2018年2月末までかかりましたが、これをもって建物についてはすべての復旧工事が完了しています。



1 被害を受けたヒマラヤ杉 2 瓦が落下したデフォレスト記念館 3 再生中のグラウンドの柿の木

今後の
方針

創建前からグラウンドに立つ柿の木、シェイクスピア・ガーデンのイトスギなど、数多くの大切な学院の樹木が惜しくも倒れましたが、柿の木は再び芽吹くことを祈って再

生中、イトスギはやむなく根本伐採し、苗木の新植を検討中です。とくに通路や建物際の老木や高木については安全対策としての樹木管理を計画的に進めていきます。

プレーしやすい オムニコートを整備

オムニコートに改修した後は、危険なローラー整備が不要であり、雨が上がればすぐに授業やクラブで使用することが可能です。また、コートが冬の寒さで凍ることもありません。天候などのコンディションに左右されるクレイコート（土のコート）は敬遠される傾向にありますが、オムニコートはクレイコートと比較すると利用価値が増し、常に良い状態でプレーすることができます。そして、なにより本学院の特色でもあるグラウンドの芝生や自然の緑と調和した景観になっています。



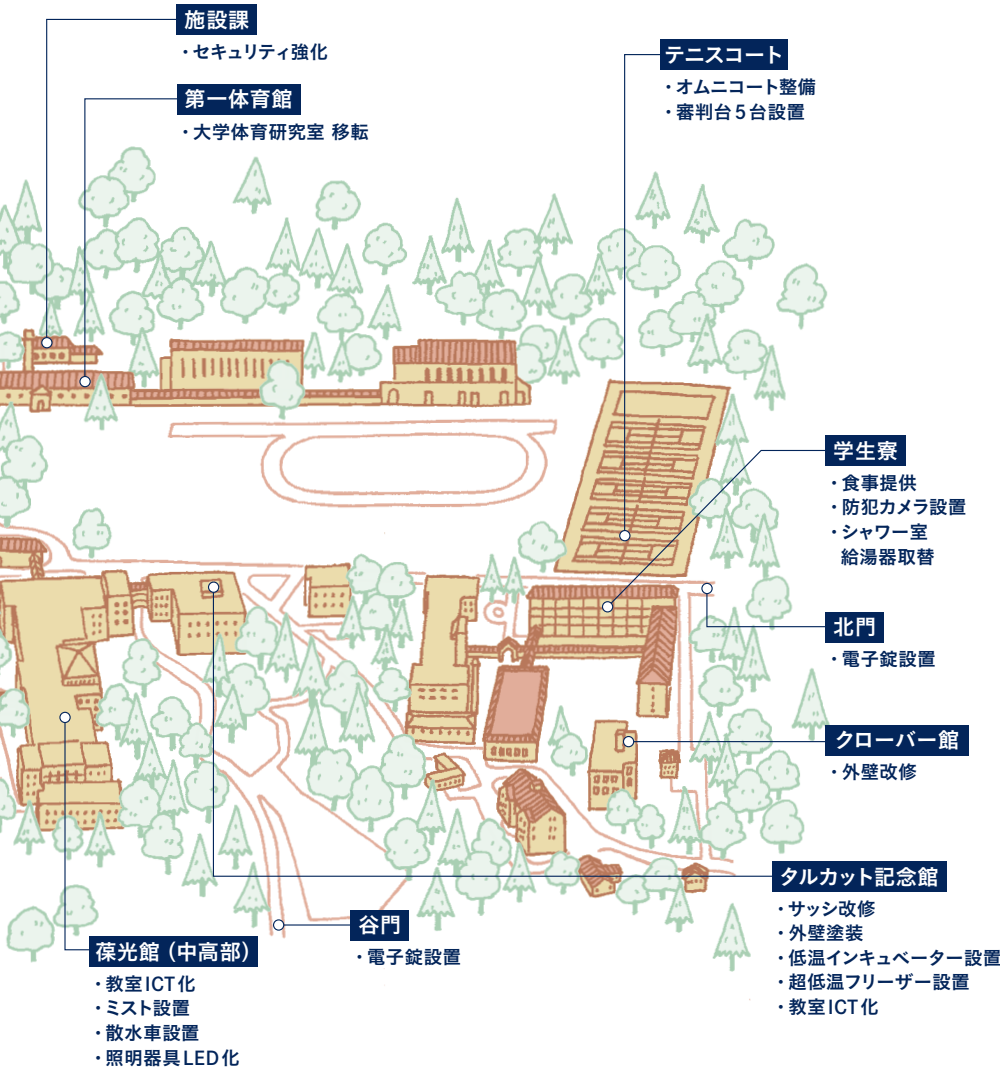
整備の手間が少なく、使いやすいオムニコート

大学体育研究室が 第一体育館1階へ移転

2018年2月、大学体育研究室は第一体育館北側から第一体育館1階に移転しました。移転後の大学体育研究室は、体育室や学生更衣室に隣接しているため、学生が入室しやすい環境となりました。また、研究室前に空間的余裕ができ、学生へのきめ細かな対応ができるようになりました。



体育室や更衣室に隣接する場所へと移転し、校舎からのアクセスがよくなりました



新社交館2階食堂のテーブル・椅子更新

新社交館2階食堂のテーブル・椅子は35年以上にわたって使用されているものが中心となっており、経年劣化が課題となっていました。家庭会大学部会からの現物寄付により、テーブルと椅子の更新を行いました。ベースは木製で維持しやすさが考慮された素材を活用しつつ、テーブルの白い天板と椅子の座面には3つの淡い色調を用い、雰囲気も明るいものとなりました。また、利用の実態にあわせて2人がけテーブルやカウンター席を大幅に増やすことで、混雑緩和を図っています。座り心地やデザインにもこだわっており、多くの学生・生徒に憩いの時間を提供しています。



テーブルと椅子を入れ替えた新社交館。フロア全体の雰囲気も明るくなりました

環境整備 中高部の取り組み

タルカット記念館西面の外壁鋼製建具と外壁の改修工事を実施

タルカット記念館は竣工後約40年が経過していることから、サッシの劣化や外壁のひび割れなど各所に損傷が見られ、建物内への漏水などが問題となっていました。今後建物の耐久性を維持し、安全に使用し続けるために既存の鋼製サッシを腐食しにくいアルミサッシに更新した他、外壁のひび割れ補修や塗装の更新など劣化部の改修工事を行った結果、これまでに見られた漏水や隙間風などの不具合が解消されました。またサッシや外壁

など外部の改修を行ったことから建物の外観が改善され、キャンパス内の美観の維持にもつながっています。

タルカット記念館は建物の規模が大きいため、複数年度にわたって改修することとし2017年度は西面の改修を先行して行いましたが、2018年度以降に他の3面を順次改修する予定にしています。建物の築年数も考慮し、老朽箇所については今後も定期的に改修工事を行うよう計画を進めます。



改修後の西面

学習環境 中高部の取り組み

ネットワークを活用した授業推進のため、教室をICT化

中学部、高等学部のH.R教室、生物・化学教室などの特別教室を対象に、黒板中央に引き下ろし式のマグネットスクリーンと電子黒板機能付きプロジェクターを設置。教員がデジタル教材をスムーズに利用できるように、各入力機器（書画カメラ、ノートパソコン、HDMI対応の機器）のインターフェイスボックスも設置しました。授業において教材を視覚的に見ることができるよう、生徒の理解がさ

らに深まることを期待しています。

また、インターネット上の教材や各教員がファイルサーバーに保存している教材の表示、連絡事項や出欠確認の入力の他、少人数のグループワークで電子黒板機能付きプロジェクターの有効活用が図れるよう、1号館、アンジー・クルー記念館、タルカット記念館に無線LANのアクセスポイントを設置。今回の整備でネットワークを利用した授業への対応が完了しました。



学びを深める、電子黒板を利用した授業

学習環境 大学の取り組み

実習から卒業研究まで活用できる原子発光分光分析装置

環境・バイオサイエンス学科2年次の環境科学実習では、本機器を用いて学生の毛髪中の重金属濃度を測定し、自らの重金属濃度と健康状態に関して考察しました。また、卒業研究では現在社会問題となっているマイクロプラスチックを対象に、重金属の吸着性について調査しました。さらに、高校生を対象としたサイエンスキャンプにおいても、測定実習を行い、最新の分析機器に対する理解を深めてもらいました。



サイエンスキャンプに参加した高校生が、本機器を用いて毛髪中の亜鉛濃度を測定している様子

環境整備 大学の取り組み

ジョージ・オルチン記念音楽館の空調を整備

竣工以来約30年間使用し続けてきたジョージ・オルチン記念音楽館の研究室・教室系統空調機と2階・3階廊下室内機の更新を行いました。また湿度変化による楽器への悪影響を防ぐため、1階合奏室は新たに恒温・恒湿機能に配慮したシステムに更新しました。他にも、老朽化したキャンパス内各所の空調設備を計画的に更新しており、突発的な故障を防止するとともに、快適な教育環境を維持できるよう努めています。

学生支援 大学の取り組み



フレッシュマンキャンプで新入生同士が交流

毎年4月から5月にかけて、新入生を対象とした一泊二日のフレッシュマンキャンプを実施しています。フレッシュマンキャンプはオリエンテーション・プログラムの一つで、小グループに分かれて、各グループ担当の教員や上級生とともに交歓のひとつときを持つものです。会場は学外の施設やホテルを利用しています。普段は教室以外で接する機会の少ない先生方と勉強以外のことについても話し合ったり、考えたりする貴重な機会と

なっています。

また、食事や宿泊を共にしてお互いにもまだよく知らない新入生同士の友達づくりの機会にもなっています。2017年度は、英文学科、総合文化学科、音楽学科、心理・行動科学科が淡路島で、環境・バイオサイエンス学科が神戸市でフレッシュマンキャンプを実施しました。キリスト教の教えにふれるとともに、教職員やクラスの仲間との親睦を深めることができました。



寝食を共にすることで教員や学生同士の距離も縮まります。4年間、学び合い励まし合う仲間との絆が生まれる、貴重な時間です

学生支援 大学の取り組み

学生寮での夕食提供

学生寮での食事は自炊を基本としていますが、2017年度より、希望した寮生には経費の一部を本学院が負担し、夕食（お弁当）を提供しています。寮生の食生活を充実させ健康の促進に取り組んでいます。



食堂から届けられる夕食は栄養バランスも考えられています

環境整備 大学の取り組み

教務システムサーバ更新

これまで運用していたサーバの老朽化に伴い、教務システム GAKUEN / UNIVERSAL PASSPORT をアップデート。基本機能の更新に加え、万が一の際も事業継続ができるように別棟でのバックアップ体制を整備するなど、構成変更も実施しました。これにより、学籍・教務情報などの部署間連携強化のための基盤が拡充されたこととなります。

学生支援 大学の取り組み

「神戸女学院大学 給与奨学金」の新設

「神戸女学院大学給与奨学金」は2017年度より新しく設けた制度で、経済的な事情を抱えた成績優秀な学生に対し、修学を経済的に支援することを目的とした奨学金です。2017年度は7名の学生が受給者となりました。学生が経済的理由により学業断念を余儀なくされることのないよう、また学業に専念し充実した大学生活を送れるよう、学生支援に取り組んでいきます。

環境整備 全学の取り組み

セキュリティ対策を強化

2016年度よりプロジェクトを発足し、学内セキュリティ対策の強化に取り組んでいます。2017年度はジュリア・グッドレー記念館と施設課入口に入退館管理装置を設置。平日夜間と休日は学内関係者以外の侵入を防ぎます。また、2018年4月より正門と西門の警備体制を強化、警備員を増員した上で外来者の受付を行っています。さらに谷門に電気錠付き小扉を、北門の小扉に電気錠を設置し、2018年7月以降に本格運用を開始予定です。

職員支援 全学の取り組み

働き方改革プロジェクトを発足、提言を実施

院長からの諮問により、本学院の様々な部署の中堅職員を中心に構成（9名）する「働き方改革プロジェクト」を2017年10月に発足しました。半年間で計6回の会議における活発な議論を経て、組織運営や人事制度の改善の他、事務の見直しなど、多岐にわたる内容の提言書を答申しました。本学院の長所は維持・向上させつつ、外部環境の変化を踏まえ積極的に改革を推進するよう提言しました。



「働き方改革プロジェクト」を構成しているのは、部署の垣根を越えたメンバー

学生と企業との コラボレーションによる 商品開発

西宮市が新たに始めた「産学官連携による西宮ブランド産品創造事業」の一環として、株式会社フェリシモが市内の学生や企業とともに「にしのみにゃ部」を立ち上げ、猫にまつわる商品を開発しました。

市内の大学からは12名の学生がこのプロジェクトに参加しましたが、そのうち5名は本学の学生でした。学生たちはフェリシモの社員とともに商品開発を行い、7つの新商品（食品）を出すことができました。それらの商品はフェリシモが運営する店舗に加え、学内のセブン-イレブンでも販売されました。

詳しくはこちら▶<https://www.nekobu.com>



商品企画セミナー
での様子



出来上がった商品のサンプルを
チェックする様子



本学から
プロジェクトに参加した
5名の学生



KOBE COLLEGE
AN
SOCIAL
UNIVERSITY

2017年度、学生・
多くの成果を生み
価値に注目が集ま

CARE 専門家向け ワークショップ実施報告

CAREとは子どもの問題改善に有効な心理教育プログラムです。2017年10月9日、関西では稀なCARE-Japan公認の標記講座を開催。医師、大学教員等21名の専門家が受講、大変好評を得ました。本学心理相談室の子育て支援事業の先進性を示す機会となりました。



CARE 専門家向け
ワークショップ
トレーナーによるスキ
ル紹介の様子

通訳・翻訳ボランティア 地域貢献への試み

本学では通訳・翻訳教育の一環として実地訓練を十余年にわたり実施してきました。その活動を地域貢献につなげるべく2017年度より「通訳・翻訳ボランティア申込受付ウェブサイト」を稼働。結果、13件のボランティア案件（うち5件は学内）を実現しました。神戸や大阪で開催された学会・シンポジウム・地域イベントという本格的な現場において同時通訳を行い、本学の大学院生が学外の方々に奉仕しながら学びを得られる貴重な機会になりました。



KOBE COLLEGE
×
地域

「地域創りリーダー
養成プログラム」
発表会を開催

夏のオープンキャンパスに合わせて、副専攻プログラム「地域創りリーダー養成プログラム」の受講生たちが、2016年度の活動成果を報告する発表会を行いました。2016年度は「子ども交流班」「高齢者福祉班」「門戸厄神班」「山口町班」の4つのグループが活動を行いました。発表会には、高校生に加えて、各グループの活動にご協力いただいた地域・団体の皆さまや、同プログラムを受講していた卒業生の姿もありました。

KOBE COLLEGE
×
科学

地域向けの
科学イベントを開催

■ 子ども科学大学

新聞社と共同開催した「色が変わる不思議なハーブティー」のイベントには小学校5・6年生の児童とその保護者が参加。マイクロスケール実験を行いました。



■ ひらめき☆ときめきサイエンス

科研費の研究の成果を広く社会に伝えるために開催。マイクロスケール実験教材を用い、「水溶液と金属との反応」などのテーマで講義・実験を行いました。

COLLEGE
AND
ETY

生徒の取り組み等が
学外から本学院の
りつつあります。

KOBE COLLEGE
×
文化

キャンパスの
歴史を
語り継ぐ活動

■ 学び舎を案内する
ツアー・マイスター

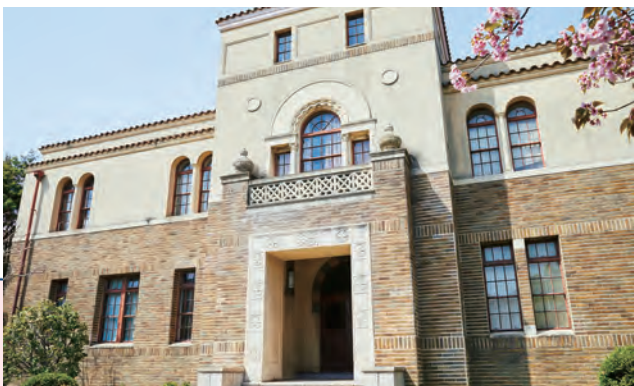
「ツアー・マイスター」はすでに4期生が誕生しており、現在約80名が登録しています。2017年度からは自校教育の一環としてカリキュラムに組み込まれ、単位取得も可能となりました。



2017年度は約850名の
ご見学者を受け入れました

■ 重要文化財 神戸女学院保存活用委員会を開催

2014年9月に12棟が重要文化財に指定されて以来取り組んできた保存活用計画書を文化庁に提出し終え、具体的な改修工事等の計画を進めるために、2018年1月末、今年度第1回目の委員会を開催しました。2018年3月から実施の総務館・講堂の耐震補強、2018年度に実施予定の理学館・総務館美装化、公開活用計画などについて学外委員の方々から貴重な意見をいただきました。



KOBE COLLEGE
×
芸術

芸術を通して
地域や世界とつながる取り組み

■ 米国サムヒューストン
州立大学との
合同オペラを上演

提携する米国の大学と共同で、パーセルの歌劇「ディドとエネアス」を制作・公演しました。学生達がお互いの国を相互訪問し、国際理解を通じ芸術で結ばれ、総勢50名の学生により、2018年3月に米国で、6月には本学で公演を行います。



■ 『クリスマス曲集』を制作

クリスマス礼拝で歌い継がれてきた作品を楽譜にまとめました。



■ 子どものための
クリスマス
コンサート



■ 世界的バレエダンサーが来訪

世界的バレエダンサーのウラジミール・マラーホフ氏が来訪。音楽学部舞踊専攻の学生のために公開講座を行いました。



神戸女学院の2017年度の取り組み

キャンパスを飛び出し、多くの経験や交流を通して知的好奇心を刺激する。
自由に学び、自由に考える多様な取り組みを行いました。

西宮市主催の ビジネスコンテストで受賞

大学



#01

西宮の魅力を生み出し、再発見するビジネスアイデアを西宮市内の学生が提案し、競い合う「にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト」。2017年度は心理・行動科学科の学生が西宮の自然の恵みから作られる和紙に注目し、「名塩和紙でつくるブックカバー」を提案しました。企業やNPOとの議論を通して地域や社会と直接関わり、ビジネスの立ち上げに挑戦。西宮商工会議所会頭賞（2位に相当）受賞という成果をあげました。

中高部

「the World Scholar's Cupの 決勝大会に出場、銀メダル獲得」

#02

50カ国を超える国々から学生が集まり、総合的な教養を競う「the World Scholar's Cup (WSC)」。

6教科についてディベート・ライティング・ペーパーテスト・クイズの4競技が行われるもので、出身国の違う学生3人が1チームとなって競います。2017年7月に開催されたアテネ大会と、11月に開催されたイェール大学での決勝大会に高等学部2年生の生徒2名が出場。他国の学生との交流を通して学びへの意欲をより高める体験をしました。

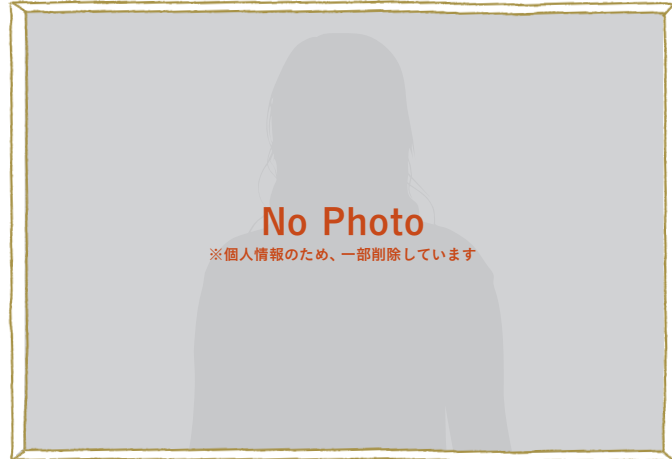


中高部

「女子数学オリンピックの 日本代表として銅メダル獲得」

#03

2017年4月6日～12日、スイスのチューリッヒで開催された第6回「2017ヨーロッパ女子数学オリンピック(EGMO)」に日本代表選手の一員として高等学部3年生1名が出場し、銅メダルを受賞しました。日本は2014年第3回大会からEGMOに参加。これまで本校生徒は、2014年第3回大会で1名が銀メダル、2015年第4回大会で1名が銅メダル、2016年第5回大会で2名が銅メダルを獲得しています。



「たち花クッキー」
を開発!



#04

大学

「食」を通して、 企業・地域とコラボ — 神戸風月堂、神戸市 —

環境・バイオサイエンス学科の高岡教授ゼミでは、神戸風月堂と学生18名がコラボレーション。日本原産で絶滅危惧種にも指定されている希少な柑橘類「大和橘」を用いた菓子開発に参加しました。機能性を科学的に分析・調査するとともに、産地による抗酸化作用の違いを検証。また「大和橘」が古典文学でどう扱われてきたかを読み解いたり、商品パッケージのデザインに挑戦したりと、多面的に学ぶ機会を得ました。

神戸市主催「KOBE “にさんがろく” PROJECT」で、高岡教授ゼミの学生が神戸の食材を使ったインバウンド向けのパンを企画。2017年12月12日の提案会でアドバイザー特別賞を受賞しました。

特別賞を
受賞
しました



入学定員・収容定員・在籍者数 (2017年5月1日現在)

神戸女学院大学

文学部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学科	150	182	580	721
総合文化学科	200	243	800	936
計	350	425	1,380	1,657
音楽学部				
音楽学科	46	44	186	177
	(編入) 1	0		
計	47	44	186	177
人間科学部				
心理・行動科学科	90	116	360	416
環境・バイオサイエンス学科	80	99	320	376
計	170	215	680	792
大学 計	567	684	2,246	2,626

* 2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員

神戸女学院大学大学院

文学研究科		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学専攻	博士前期課程	13	9	26	16
	博士後期課程	2	1	6	2
比較文化学専攻	博士前期課程	5	3	10	5
	博士後期課程	2	0	6	0
計		22	13	48	23
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	9	20	22
	博士後期課程	2	0	6	0
計		12	9	26	22
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	7	14	15
大学院 計		41	29	88	60

神戸女学院中高部

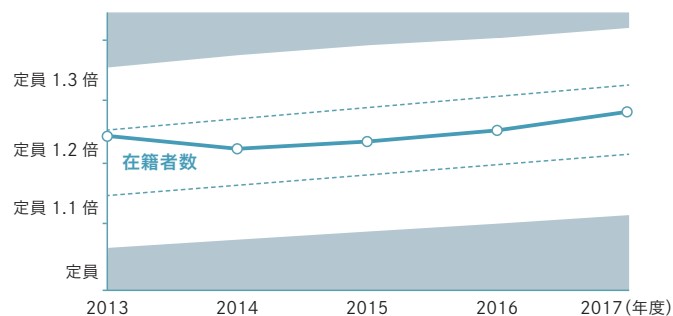
	入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部	135	143	405	426
高等学部 全日制課程 普通科	—	—	405	413
中高部 計	135	143	810	839

在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
文学部	1,606	1,588	1,615	1,619	1,657
音楽学部	206	183	180	185	177
人間科学部	784	796	772	759	792
計 (A)	2,596	2,567	2,567	2,563	2,626
定員 (B)	2,178	2,207	2,226	2,236	2,246
(A)／(B)	1.19	1.16	1.15	1.15	1.17

* 2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
文学研究科	26	23	23	18	21
人間科学研究科	18	22	22	23	22
音楽研究科	11	13	18	17	15
計	55	58	63	58	58

博士後期課程					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
文学研究科	3	4	4	2	2
人間科学研究科	2	5	3	4	0
計	5	9	7	6	2

神戸女学院中高部

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
中学部	416	423	419	424	426
高等学部	429	418	411	402	413
計	845	841	830	826	839

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
志願者数	3,454	3,692	3,753	3,539	4,038
合格者数	1,461	1,656	1,741	1,668	1,377
入学者数	630	644	655	684	627

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
志願者数	48	41	44	39	30
合格者数	34	30	31	29	21
入学者数	20	28	27	28	17

博士後期課程					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
志願者数	4	1	2	1	2
合格者数	4	1	1	1	2
入学者数	4	1	1	1	2

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験	前期 A 日程	3 科目型	501	496	182	2.7
		2 科目型	659	649	237	2.7
		音楽学科	25	24	21	1.1
	前期 B 日程		564	553	171	3.2
	前期 C 日程		393	282	60	4.7
	前期 D 日程	センター 1 科目型	140	74	17	4.4
		センター 2 科目型	95	42	9	4.7
大学入試センター試験 を利用する入学試験	前期日程	2 科目型	199	199	59	3.4
		3 科目型	156	156	48	3.3
		4 科目型	60	60	29	2.1
	後期日程	2 科目型	80	80	15	5.3
		3 科目型	31	31	7	4.4
		4 科目型	28	28	11	2.5
一般入学試験 後期日程			282	264	47	5.6
公募制推薦入学試験			588	583	240	2.4
AO 入学試験			35	32	24	1.3
帰国子女入学試験			1	1	1	1.0
社会人入学試験			0	—	—	—
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			0	—	—	—
国際バカロレア入学試験			0	—	—	—

今年度の傾向

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の志願者数・合格者数・入学者数

2018年度入試では、本学は2点の新しい施策を実施しました。ひとつは文学部英文学科での英語資格試験利用型入試の導入、もうひとつは一般入試およびセンター利用入試におけるインターネット出願の導入です。志願者総数は受験者の文高理低志向と大規模大学の定員管理厳格化の影響を受け、昨年度比14%増の結果となりました。但し、学科によってばらつきが出ており、次年度は解消に努めたいと考えています。

神戸女学院中高部

中学部					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
志願者数	214	223	255	260	249
合格者数	153	157	162	158	159
入学者数	141	140	145	143	149
転入学者数	1	0	—	—	—
編入学者数	—	—	—	1	—

高等学部					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
編入学者数	1	—	—	—	1

*高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

留学

神戸女学院大学、大学院

本学から海外へ 総計 **128**人

プログラム	大学名	国名	人数
派遣留学	ロックフォード大学	アメリカ	1
	サムヒューストン大学	アメリカ	1
	チャタム大学	アメリカ	1
	イーストアングリア大学	イギリス	1
	徳成女子大学	韓国	1
	ミリアム大学	フィリピン	1
	アサンブション大学	フィリピン	1
	国別集計	アメリカ	3
	イギリス	1	
	韓国	1	
	フィリピン	2	
長期派遣		計	7

プログラム	大学名	国名	人数
認定留学	梨花女子大学	韓国	1
	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	2
		計	3

プログラム	大学名	国名	人数
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	5
		計	5

プログラム	大学名	国名	人数
中期海外研修	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	6
	ヨーク大学	カナダ	8
	クイーンズランド大学	オーストラリア	7
	計		21

プログラム	大学名	国名	人数
語学研修	夏期：ヨーク大学	カナダ	20
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	15
	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	6
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	16
	春期：ヨーク大学	イギリス	22
	春期：広東外語外貿大学	中国	3
	春期：梨花女子大学	韓国	10
	国別集計	カナダ	20
		オーストラリア	31
		イギリス	22
		アメリカ	6
		中国	3
		韓国	10
	計	92	

今年度の傾向

神戸女学院中学部の志願者数・合格者数・入学者数

2018年度入試における志願者数は昨年度より微減に転じました。ここ数年の数字を見る限りでは各年での微増減はあるものの、今年度は予測を上回る149名の入学者数となり、本学への進学希望の高さが如実に現れたと言える年になりました。

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の留学について

2017年度本学から海外への留学・派遣人数は128名で前年度(116名)から約10%増となりましたが、(長期)派遣留学への参加人数が半減(13名→7名)しており、次年度へ向けて学生の留学準備に対する支援を強化します。海外から本学への受入人数は74名と前年度比約3割増加しましたが、バディ制度の活用などによって学生との交流活動をさらに深化・活性化できるように努めます。

海外から本学へ 総計 **74**人

プログラム	大学名	国名	人数
交換留学	ボーリンググリーン大学	アメリカ	1
	梨花女子大学	韓国	1
	広東外語外貿大学	中国	2
	アサンプション大学	フィリピン	2
	国別集計	アメリカ	1
		韓国	1
		中国	2
フィリピン		2	
長期受入		計	6

プログラム	大学名	国名	人数
HONORS	ワイオミング大学	アメリカ	16
—	ボーリンググリーン大学	アメリカ	10
—	チャタム大学	アメリカ	15
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	5
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	10
—	アサンプション大学	フィリピン	10
—	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	2
短期受入		計	68

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
交換留学	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1
公認留学	Queen's High School	ニュージーランド	1
	Otago Girls' High School	ニュージーランド	1
	Someron lukio	フィンランド	1
		計	4

海外から本学へ

国名	人数
オーストラリア	3
フランス	1
計	4

卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2013年度	165	226	55	98	83	627
2014年度	149	203	52	105	97	606
2015年度	169	225	40	104	91	629
2016年度	154	214	50	90	84	592
2017年度	167	216	32	95	95	605

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科		音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2013年度	7	1	7	7	22
2014年度	5	4	4	10	23
2015年度	4	6	9	10	29
2016年度	5	1	9	10	25
2017年度	4	0	8	11	23

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

博士後期課程

博士後期課程単位取得退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2013年度	—	—	—	—
2014年度	—	1	—	1
2015年度	1	—	—	1
2016年度	1	—	3	4
2017年度	1	—	—	1

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2013年度	—	1	—	1
2014年度	1	—	—	1
2015年度	2	—	1	3
2016年度	1	—	—	1
2017年度	—	—	—	0
博士後期課程 設置当初からの 累計	9	2	13	24

神戸女学院中高部

	中学部
2013年度	134
2014年度	141
2015年度	139
2016年度	140
2017年度	139

	高等学部
2013年度	144
2014年度	143
2015年度	139
2016年度	128
2017年度	138

就職・進学状況

神戸女学院大学

2017年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は99%で、前年度を0.2ポイント上回り、過去5年で一番高い数字となりました。産業別では金融業・保険業がやや減少し、卸売業・小売業の比率が増加しました。企業の採用意欲が高かったせいか、大学院進学者数は25名となり昨年よりわずかに減少しました。

主な就職先（2018年3月卒業生）

建設業	Kスカイ	中国銀行	ヒルトングループ
積水ハウス	CKTS	トマト銀行	医療、福祉
竹中工務店	ソラシドエア	愛媛銀行	社会医療法人愛仁会
三井ホーム	西鉄エアサービス	四国銀行	明石医療センター
製造業	羽田空港サービス	大分銀行	独立行政法人国立病院機構
アイシン・エイ・ダブリュ工業	マカオ航空	鹿児島銀行	近畿グループ
アルインコ	東海旅客鉄道	三菱UFJ信託銀行	教育、学習支援業
イトーキ	西日本旅客鉄道	大和証券	大阪医科薬科大学
オリエンタルモーター	上組	野村證券	大阪音楽大学
コスモエネルギーグループ	キリングroupプロジェクトス	三菱UFJ	兵庫県中学校教員
コルグ	ケイラインプロジェクトス	モルガン・スタンレー証券	サービス業
サラヤ	三菱倉庫	尼崎信用金庫	クラブツーリズム
島精機製作所	新日本海フェリー	但陽信用金庫	JTB西日本
住友電気工業	一般社団法人日本海事検定協会	兵庫六甲農業協同組合	住友三井オートサービス
ダイキン工業	日本郵便	住友生命保険	セコム
ダイハツ工業	卸売業、小売業	大同生命保険	総合警備保障
タカラバイオ	青山商事	太陽生命保険	中央コンサルタンツ
TASAKI	アズワン	日本生命保険	一般社団法人日本自動車連盟
東芝エレベータ	岩谷産業	三井住友海上あいおい生命保険	パーソルキャリア
日本バイリン	岡本無線電機	三井生命保険	バリューマネジメント
任天堂	加藤産業	明治安田生命保険	阪急交通社
ハイレックスコーポレーション	カネカ食品	あいおいニッセイ同和損害保険	PwC京都監査法人
フォクシー	クリヤマ	損害保険ジャパン日本興亜	日立キャピタルNBL
ミキモト	資生堂ジャパン	東京海上日動火災保険	マイナビ
UCC上島珈琲	神明	オリエントコーポレーション	三井住友ファイナンス&リース
雪印種苗	ダイワボウ情報システム	セディナ	三菱電機ビルテクノサービス
雪印メグミルク	トラスコ中山	ベルソナ	公務
湯山製作所	日伝	三井住友カード	世田谷区
ライオン事務器	阪急阪神百貨店	楽天カード	静岡市
情報通信業	富士貿易	不動産業	大阪府
NTTデータMSE	ポーネランド	イオンモール	兵庫県
大塚商会	ホンダカーズ大阪	近鉄不動産	宝塚市
数研出版	ユーシーシーフーズ	みずほ不動産販売	姫路市
スミセイ情報システム	金融業、保険業	三井住友トラスト不動産	佐用町
T&D情報システム	日本銀行	宿泊業	奈良市
トランスコスモス	みずほフィナンシャルグループ	ウェスティンホテル大阪	かつらぎ町
運輸業、郵便業	三井住友銀行	神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ	紀の川市
全日本空輸	三菱UFJ銀行		東洋町
ANAウイングス	りそな銀行		
ANA大阪空港	ゆうちょ銀行		
ANA関西空港	イオン銀行		
ANAテレマート	池田泉州銀行		
日本航空	関西アーバン銀行		
JALスカイ	近畿大阪銀行		
JALスカイ大阪	みなと銀行		
ジェイエア	紀陽銀行		

備考

- ・前期末卒業を含めない
- ・就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
- ・進学者：大学院進学者のみ
- ・社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先 (2018年3月卒業生) 年度毎の就職決定状況

学校名	卒業者数	希望者数	決定者数	決定者／希望者	進学者数	決定者／(卒業者－進学者)
2013年度 (2014年3月卒業生)						
英文学科						
鳴門教育大学大学院 学校教育研究科						
神戸女学院大学大学院 文学研究科						
総合文化学科						
大阪大学大学院 人間科学研究科						
大阪大学大学院 文学研究科						
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科						
神戸女学院大学大学院 文学研究科						
音楽学科						
神戸女学院大学大学院 音楽研究科						
心理・行動科学科						
大阪市立大学大学院 文学研究科						
大阪大学大学院 人間科学研究科						
関西大学大学院 心理学研究科						
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科						
武庫川女子大学大学院 文学研究科						
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科						
環境・バイオサイエンス学科						
信州大学大学院 総合理工学研究科						
大阪大学大学院 生命機能研究科						
福岡女子大学大学院 人間環境科学研究科						
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科						
総計	612	475	452	95.2%	45	79.7%
2014年度 (2015年3月卒業生)						
英文	145	130	129	99.2%	3	90.8%
総合文化	198	177	174	98.3%	5	90.2%
音楽	50	26	22	84.6%	6	50%
心理・行動	103	90	88	97.8%	9	93.6%
環境・バイオサイエンス	96	77	72	93.5%	12	85.7%
総計	592	500	485	97%	35	87.1%
2015年度 (2016年3月卒業生)						
英文	168	153	151	98.7%	2	91%
総合文化	222	204	202	99%	4	92.7%
音楽	40	18	15	83.3%	8	46.9%
心理・行動	104	85	82	96.5%	14	91.1%
環境・バイオサイエンス	91	79	78	98.7%	5	90.7%
総計	625	539	528	98%	33	89.2%
2016年度 (2017年3月卒業生)						
英文	152	137	135	98.5%	8	93.8%
総合文化	209	191	188	98.4%	3	91.3%
音楽	50	21	21	100%	7	48.8%
心理・行動	90	82	81	98.8%	6	96.4%
環境・バイオサイエンス	83	74	74	100%	4	93.7%
総計	584	505	499	98.8%	28	89.7%
2017年度 (2018年3月卒業生)						
英文	165	149	148	99.3%	3	91.4%
総合文化	212	188	185	98.4%	5	89.4%
音楽	32	18	18	100%	4	64.3%
心理・行動	95	80	80	100%	7	90.9%
環境・バイオサイエンス	94	78	77	98.7%	6	87.5%
総計	598	513	508	99%	25	88.7%

神戸女学院中高部

進学状況は非公表

役員・評議員 (2017年5月1日現在)

理事

第1号理事 院長(理事長) 定員1名、現員1名 森 孝一
第2号理事 学長 定員1名、現員1名 斉藤言子
第3号理事 中高部長 定員1名、現員1名 林 真理子
第4号理事 めぐみ会 ^{※1} 推薦会員で理事会選任 定員3名、現員3名 皆本礼子 和氣節子 松本真千子
第5号理事 評議員会選任 定員2名、現員2名 辻 毅一郎 石割初子

第6号理事 コーポレーション ^{※2} 推薦 理事会選任 定員3名、現員3名 伊藤栄子 原田恵子 溝口 薫
第7号理事 理事会選任学識経験者 定員4名、現員4名 柴谷享一郎 菅根信彦 桂 充弘 橋本恵里子

監事

定員2名、現員2名 野木芳子 下村俊子

評議員

第1号評議員 学識経験者(理事会選任) 定員11名、現員11名 橋本恵里子 竹中禮子 伊藤良子 関本雅子 佐藤容子 石田忠範 芹野與幸 辻 毅一郎 内藤 能 久保田哲夫 西澤他喜衛
第2号評議員 卒業生(めぐみ会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 石割初子 中川玲子 梅田玲子 小澤妙子 大橋悦子

尾崎日佐子 杉本雅代 前田厚子
第3号評議員 教職員(理事会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 中野敬一 飯 謙 高橋雅人 大門光歩 喜多牧子 森谷典史 住野秀樹 林 典宏
第4号評議員 コーポレーション推薦 評議員会選任 定員4名、現員4名 Martha Mensendiek 馬場美奈子 水野多美 小澤純子

※1 めぐみ会…正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)
※2 コーポレーション…正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

教職員 (2017年5月1日現在)

在籍教職員数

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	8	7	3	0	0	0	0	1	0	0	19
総合文化学科	14	8	3	0	0	0	0	0	1	0	26
音楽学科	6	3	1	0	3	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	6	5	0	0	0	0	0	1	0	0	12
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11
一般(体育)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育研究センター	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	6
計	44	26	10	0	6	0	0	4	1	0	91

	教諭
高等学部	22
中学部	20
計	42

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	18	0	1	19
大学	48	0	3	51
中高部	5	0	0	5
計	71	0	4	75

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	3	9	12
週3日	1	5	6
週2日	0	4	4
週1日	0	0	0
計	4	18	22

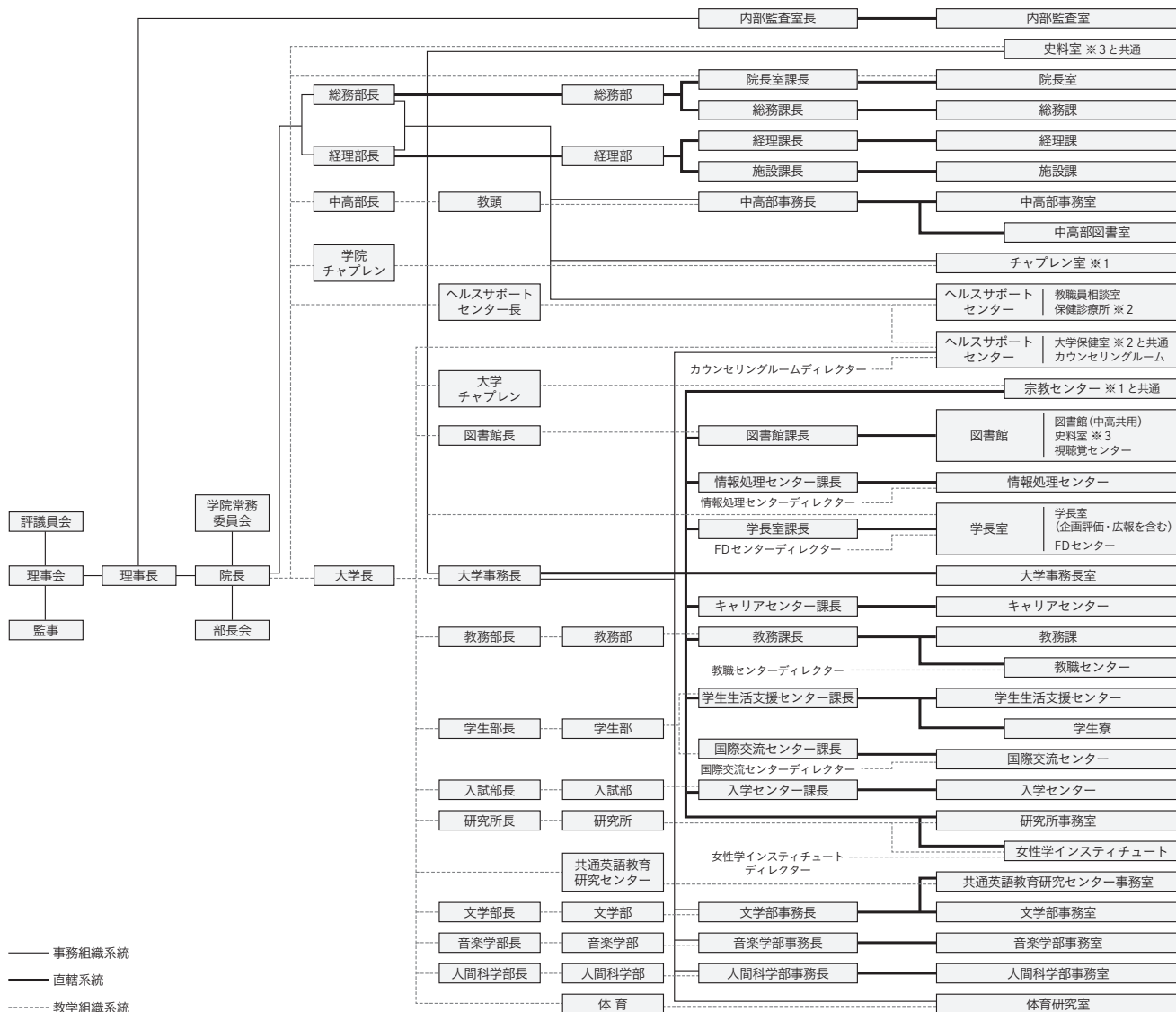
在籍教職員数推移

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
大学	専任教員	84	88	88	89	91
	非常勤講師	338	327	321	317	309
	大学計	422	415	409	406	400
中高部	専任教員	41	42	42	40	42
	非常勤講師	22	20	16	16	16
	中高計	63	62	58	56	58
計		485	477	467	462	458

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
法人	専任職員*	71	72	76	77	75
	嘱託職員	41	35	28	25	22
計		112	107	104	102	97

※契約職員含む

事務組織図 (2017年5月1日現在)



財務の概要

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は持続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校

法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

このように、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守すべき統一的な会計処理基準として「学校法人会計基準」が定められています。これに従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成し公開しています。

2017年度決算の概要

事業活動収支をみると、事業活動収入計は52億91百万円、事業活動支出計は48億97百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は3億93百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額1億94百万円、教育活動外収支差額1億42百万円、特別収支差額56百万円によって構成されています。(金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。2014年度以前の数値は新会計基準ベースに組み替えて表示しています。以下同じ。)

まず、教育活動収入(50億77百万円、前年度比+2億32百万円)をみると、学生生徒等納付金(41億31百万円、前年度比+1億6百万円)は大学において2017年度入学者数が例年より多く(684名)、在籍者数が増加(前年度比+63名)したこと等により増加しています。手数料(1億2百万円、前年度比+13百万円)は、大学において受験者の文高理低志向と大規模大学の定員管理厳格化の影響を受けたことに加え、一般入試等でインターネット出願制度を導入した効果もあり、志願者数増(前年度比+14%)に繋がり増加しました。寄付金(90百万円、前年度比+33百万円)は遺贈をはじめとする複数の大口寄付を頂いたこと、また教育振興会寄付金の件数増加等に加え、家庭会大学部会から新社交館2階食堂のテーブル・椅子の現物寄付も受け、総額は増加しています。経常費等補助金(5億31百万円、前年度比+60百万円)は、前年度に大学ITリプレースを実施したことによる教育研究経費増の影響で、大学の私立大学等経常費補助金(一般補助)が増加したほか、さらに私立大学等改革総合支援事業タイプ5(プラットフォーム形成)も採択された結果、収入増に繋がりました。中高部の兵庫県経常費補助金についても、前年度並みの収入を確保できています。付随事業収入は著変動なく(76百万円、前年度比+1百万円)、雑収入(1億44百万円、前年度比+17百万円)は、台風21、22号被害による保険金収入(17百万円)や、中学部において退職給与引当金戻入額が発生したこと等により、収入増となっています。

また、教育活動支出(48億82百万円、前年度比△1億4百万円)をみると、人件費(30億59百万円、前年度比+13百万円)は、退職関連費用が前年度より減少したものの、定期昇給等により全体的には微増となりました。教育研究経費(14億47百万円、前年度比△1億39百万円)は、前年度は大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、例年よりも費用が増加し、本年度の減価償却負担増(前年度比+33百万円)に繋がりましたが、本年度は消耗品費が減少し(△1億67百万円)、全体としては例年並みとなりました。管理経費(3億71百万円、前年度比+21百万円)は、重点施策としても掲げている大学広報の強化

の一環として、大学公式サイトや入試サイトをはじめとする各種ホームページのリニューアルを実施したこと等により、前年度よりも増加しています。

以上のような要因による収入増加および支出削減により、教育活動収支差額は1億94百万円(前年度比+3億37百万円)となりました。

次に、教育活動外収支についてみると、本年度は例年よりも金銭信託運用益が多かったため、受取利息・配当金は1億43百万円(前年度比+92百万円)となりました。また、借入金の約定返済により借入金利息が減少(△0.4百万円)し、教育活動外収支差額は1億42百万円(前年度比+93百万円)となっています。

さらに、特別収支についてみると、本年度は六甲セミナーハウス等の売却により、前年度末計上だった資産売却差額を計上(16百万円)、その他の特別収入(54百万円、前年度比+31百万円)は、教育振興会寄付金からの寄付の増加(主に岡山山キャンパス改修目的、前年度比+14百万円)や、講堂・総務館耐震改修工事にかかる施設整備費補助金(11百万円)や中高部のIT教育設備整備推進事業費による施設設備補助金の増加(前年度比+14百万円)などを計上し、特別収入は70百万円(前年度比+47百万円)となりました。一方、特別支出として、主に老朽化に伴う取替により発生した空調設備や研究機器等の除却損は、ITリプレースを実施した前年度からは大幅に減少し、13百万円(前年度比△36百万円)を計上、特別収支差額は56百万円(前年度比+84百万円)となりました。

これらの3活動により、基本金組入前当年度収支差額は3億93百万円(前年度比+5億14百万円)、基本金については、空調設備の改修やオムニコート整備等による固定資産の増加や建物借入金の返済など、資産取得にかかる支出額から六甲セミナーハウス等の売却・除却による減少額を控除した第1号基本金組入(22百万円)、および奨学基金等への計画的な組入れとして第3号基本金組入(61百万円)、合計83百万円(前年度比△2億65百万円)の基本金組入を行いました。その結果、当年度収支差額は3億10百万円(前年度比+7億79百万円)となりました。本年度は高等学部で第1号基本金取崩(1百万円)が発生しており、当年度収支差額に基本金取崩額及び前年度繰越収支差額(△15億28百万円)を加味した結果、翌年度繰越収支差額は△12億16百万円となりました。

資金収支をみると、事業活動収支で述べたような増収要因に加え、支出についても、大学ITリプレース等の環境整備費用を多く計上していた前年度と比べると大幅減となり、翌年度繰越支払資金は29億93百万円(前年度比+4億35百万円)となりました。

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動(①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動)に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内訳を示し、経常収支(①教育活動収入と②教育活動外収入)と臨時的な収支(③特別収入)を明らかにするため、また、基本金組入後の収支均衡状態を明らかにするために作成します。2017年度の事業活動収支計算書の概要は次のとおりです。

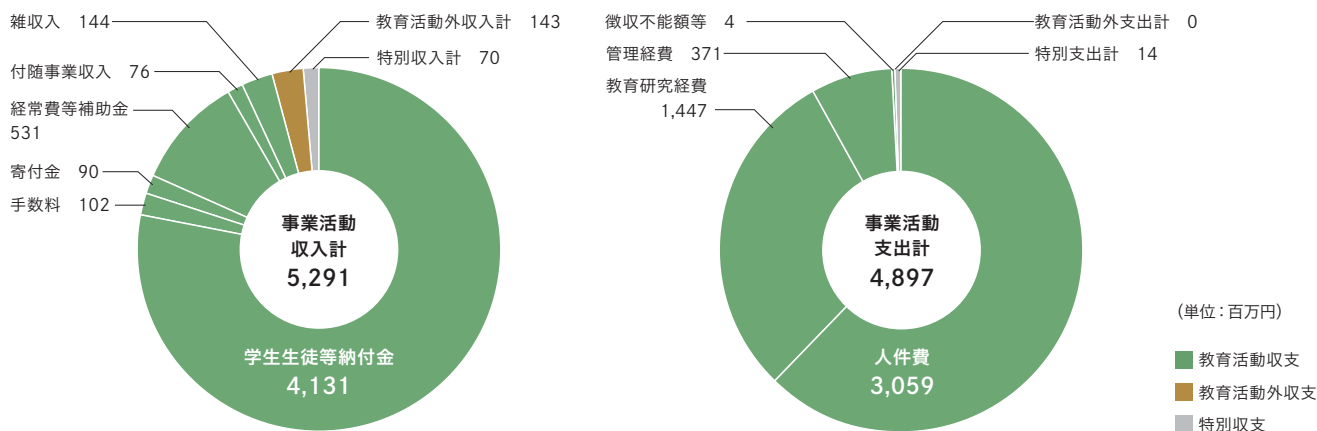
教育活動収支	経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。
教育活動外収支	主に財務活動(資金調達と資産運用に係る活動)の収支。
経常収支差額	経常的な事業活動による収入(経常収入)とコスト(経常支出)の収支差額(バランス)。
特別収支	特殊要因による臨時的な事業活動収入(施設設備取得に対する補助金等)や資産売却損益等。
基本金組入前当年度収支差額	旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。
基本金組入額合計	学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額	旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。
前年度繰越収支差額	
翌年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
事業活動収入	旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入(現物寄付を含む)。
事業活動支出	旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。

科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
事業活動収入の部				
学生生徒等 納付金	4,129	4,131	4,024	106
手数料	92	102	89	13
寄付金	86	90	57	33
経常費等 補助金	493	531	470	60
付随事業収入	73	76	75	1
雑収入	137	144	127	17
教育活動 収入計	5,012	5,077	4,844	232
事業活動支出の部				
人件費	3,031	3,059	3,046	13
教育研究経費	1,493	1,447	1,586	△139
管理経費	391	371	349	21
徴収不能額等	-	4	4	△0
教育活動 支出計	4,915	4,882	4,987	△104
教育活動 収支差額	97	194	△142	337
事業活動収入の部				
受取利息・ 配当金	143	143	50	92
教育活動外 収入計	143	143	50	92
事業活動支出の部				
借入金等利息	0	0	1	△0
教育活動外 支出計	0	0	1	△0
教育活動外 収支差額	142	142	49	93
経常収支差額	239	337	△92	430
事業活動収入の部				
資産売却差額	16	16	-	16
その他の 特別収入	30	54	22	31
特別収入計	46	70	22	47
事業活動支出の部				
資産処分差額	9	13	50	△36
その他の 特別支出	-	0	-	0
特別支出計	9	14	50	△36
特別収支差額	37	56	△28	84
基本金組入前 当年度収支差額	276	393	△120	514
基本金組入額合計	△60	△83	△348	265
当年度収支差額	216	310	△469	779
前年度繰越 収支差額	△1,528	△1,528	△1,095	△432
基本金取崩額	-	1	37	△35
翌年度繰越 収支差額	△1,311	△1,216	△1,528	311

(参考)

事業活動収入計	5,201	5,291	4,918	373
事業活動支出計	4,925	4,897	5,039	△141

事業活動収支の内訳



事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位: 百万円)

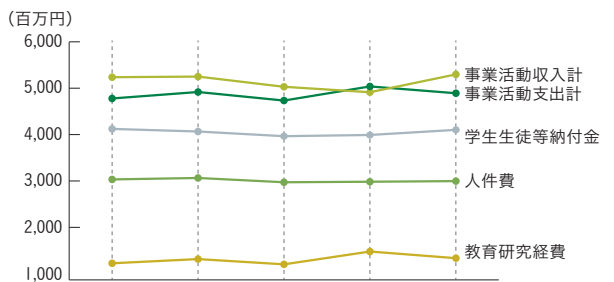
科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
事業活動収入計	5,232	5,246	5,033	4,918	5,291
事業活動支出計	4,788	4,922	4,743	5,039	4,897
基本金組入額	535	403	370	348	83
学生生徒等納付金	4,151	4,093	4,001	4,024	4,131
手数料	90	94	94	89	102
補助金(教育+特別)	489	515	496	471	546
人件費	3,093	3,122	3,035	3,046	3,059
教育研究経費	1,341	1,428	1,318	1,586	1,447
管理経費	333	355	374	349	371

事業活動収支推移 (収支差額)

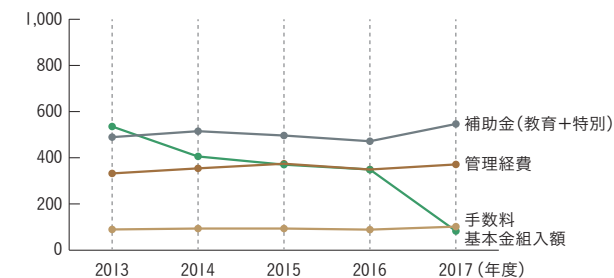
(単位: 百万円)

科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
教育活動収支差額	303	212	134	△ 142	194
教育活動外収支差額	49	64	93	49	142
経常収支差額	352	276	227	△ 92	337
特別収支差額	91	47	63	△ 28	56
基本金組入前 当年度収支差額	444	323	290	△ 120	393
当年度収支差額	△ 91	△ 80	△ 79	△ 469	310

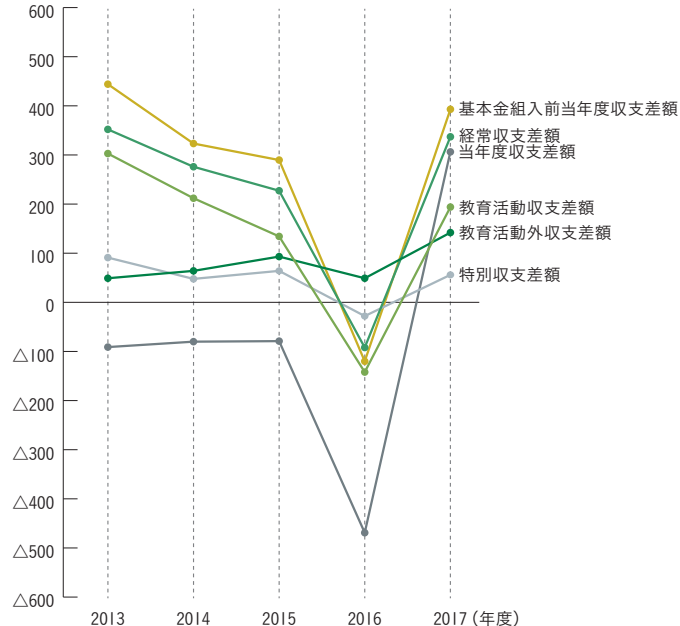
1,000～6,000 百万円



0～1,000 百万円



(百万円)



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするために作成します。2017年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,129	4,131	4,024	106
手数料収入	92	102	89	13
寄付金収入	92	109	77	31
補助金収入	497	546	471	75
資産売却収入	37	37	-	37
付随事業・収益事業収入	73	76	75	1
受取利息・配当金収入	143	143	50	92
雑収入	107	111	127	△15
借入金等収入	-	-	-	-
前受金収入	689	682	742	△60
その他の収入	121	124	203	△78
資金収入調整勘定	△793	△784	△787	3
前年度繰越支払資金	2,558	2,558	2,753	△194
収入の部合計	7,746	7,841	7,828	12

(参考)

収入の部合計 - 前年度 繰越支払資金	5,188	5,282	5,075	207
------------------------	-------	-------	-------	-----

収入の部

資金収入を伴わない収入（現物寄付金等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、負債の増加を伴う収入（借入金、前受金等）や資産の現金化（貸与奨学金の返済等）に伴う入金取引は「資金収支計算書」に計上されていますが、収益取引ではないため、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

本年度も新規借入はなく、借入金等収入は計上していません。前受金については、大学において、2017年度入学者は例年より多かったが、2018年度入学者は例年並みであったため、前年度比では減少（△60百万円）しています。

その他の収入については、退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産取崩収入が発生（23百万円）している一方、主に退職者にかかる私学退職金財団交付金収入で構成される前期末未収入金収入が減少（△84百万円）したこと等により、全体では減少（△78百万円）しています。

資金収入調整勘定についてみると、補助金や退職金財団からの未収入金および入学者数の増減に伴う前受金において現金の増減要因が相殺され、ほぼ前年度並み（△7億84百万円）となっています。

上記の結果、資金収入調整勘定も含めた本年度の総収入額は52億82百万円（前年度比+2億7百万円）と増加し、収入の部合計は78億41百万円（前年度比+12百万円）となりました。

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	3,024	3,052	3,043	9
教育研究経費支出	1,159	1,117	1,290	△173
管理経費支出	362	326	317	9
借入金等利息支出	0	0	1	△0
借入金等返済支出	55	55	115	△60
施設関係支出	61	57	141	△84
設備関係支出	112	86	295	△208
資産運用支出	57	92	159	△66
その他の支出	246	245	126	118
資金支出調整勘定	△109	△186	△220	33
翌年度繰越支払資金	2,779	2,993	2,558	435
支出の部合計	7,746	7,841	7,828	12

(参考)

支出の部合計 - 翌年度 繰越支払資金	4,967	4,847	5,270	△423
------------------------	-------	-------	-------	------

支出の部

資金支出を伴わない支出（減価償却費、資産処分差額等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、資産の入替（奨学金の貸与）、負債の減少（借入金の返済等）、資金支出時に費用にならない（将来費用化される）支出（施設関係支出、設備関係支出、前払金支払支出等）などは、「資金収支計算書」には計上されますが、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

借入金については、本年度も約定返済を実施しており、元本の減少に伴い利息支出も減少しています。

施設関係支出については、オルチン館空調設備改修工事や第一体育館において大学体育研究室の移転改修工事、オムニコート（2面）の整備などにより、57百万円の支出となりました。一方、設備関係支出については、研究機器の購入や大学教務システムサーバ更新、中高部教室ICT化などにより、86百万円（前年度比△2億8百万円）となりました。

上記の結果、資金支出調整勘定も含めた本年度の総支出額は48億47百万円（前年度比△4億23百万円）にとどまり、翌年度繰越支払資金は29億93百万円（前年度比+4億35百万円）となりました。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の決算額を3つの活動（①教育活動、②施設・設備の取得又は売却その他これに類する活動、③資金調達その他①②にかかる活動以外の活動）に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするために作成します。

2017年度の活動区分資金収支計算書は次のとおりです。

(単位：百万円)

		科目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A) - (B)
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,131	4,024	106
		手数料収入	102	89	13
		特別寄付金収入	74	57	17
		経常費等補助金収入	531	470	60
		付随事業収入	76	75	1
		雑収入	111	127	△ 15
		教育活動資金収入計	5,028	4,844	183
	支出	人件費支出	3,052	3,043	9
		教育研究経費支出	1,117	1,290	△ 173
		管理経費支出	326	317	8
教育活動資金支出計		4,496	4,651	△ 155	
	差引	532	193	339	
	調整勘定等	△ 54	172	△ 226	
	教育活動資金収支差額	478	365	112	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	34	20	14
		施設設備補助金収入	15	0	14
		施設設備売却収入	37	-	37
		施設整備等活動資金収入計	87	20	66
	支出	施設関係支出	57	141	△ 84
		設備関係支出	86	295	△ 208
		岡田山建築保存引当特定資産繰入支出	31	19	12
		施設整備等活動資金支出計	175	456	△ 280
		差引	△ 88	△ 435	347
		調整勘定等	△ 23	48	△ 71
	施設整備等活動資金収支差額	△ 111	△ 387	276	
	小計（教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額）	366	△ 22	388	
その他の活動による資金収支	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	23	-	23
		貸与奨学金回収収入	34	41	△ 7
		差入保証金回収収入	0	-	0
		預り金収入	3	13	△ 9
		小計	61	55	6
		受取利息・配当金収入	143	50	92
		その他の活動資金収入計	205	106	99
	支出	借入金等返済支出	55	115	△ 60
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	61	136	△ 75
		退職給与引当特定資産繰入支出	-	3	△ 3
		出資金支出	0	0	△ 0
		貸与奨学金支払支出	20	22	△ 2
		差入保証金支出	0	-	0
		小計	136	277	△ 141
		借入金等利息支出	0	1	△ 0
		過年度修正支出	0	-	0
その他の活動資金支出計		137	279	△ 141	
	差引	67	△ 172	240	
	調整勘定等	0	-	0	
	その他の活動資金収支差額	68	△ 172	241	
	支払資金の増減額（小計 + その他の活動資金収支差額）	435	△ 194	630	
	前年度繰越支払資金	2,558	2,753	△ 194	
	翌年度繰越支払資金	2,993	2,558	435	

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするために作成します。
2017年度の貸借対照表の概要は次のとおりです。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	15,663	15,856	△ 192
有形固定資産	8,614	8,843	△ 229
土地	1,340	1,341	△ 1
建物	4,195	4,376	△ 181
構築物	502	522	△ 20
教育研究用機器備品	509	558	△ 48
管理用機器備品	26	20	5
図書	2,036	2,022	13
車両	0	0	△ 0
建設仮勘定	2	-	2
特定資産	6,350	6,281	69
第3号基本金引当特定資産	1,589	1,528	61
退職給与引当特定資産	1,445	1,468	△ 23
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	178	146	31
その他の固定資産	698	731	△ 33
電話加入権	3	3	0
ソフトウェア	65	80	△ 14
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	0
出資金	20	20	0
貸与奨学金	197	215	△ 18
その他	0	0	0
流動資産	3,048	2,632	416
現金預金	2,976	2,541	434
修学旅行費預り資産	17	16	0
未収入金	41	63	△ 22
前払金	13	10	3
資産の部合計	18,712	18,488	223

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,630	1,669	△ 38
長期借入金	183	196	△ 13
長期未払金	1	3	△ 2
退職給与引当金	1,445	1,468	△ 23
流動負債	984	1,115	△ 130
短期借入金	13	55	△ 42
未払金	180	212	△ 32
前受金	682	742	△ 60
預り金	91	88	3
修学旅行費預り金	17	16	0
負債の部合計	2,614	2,784	△ 169

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	17,314	17,232	81
第1号基本金	15,370	15,349	20
第3号基本金	1,589	1,528	61
第4号基本金	354	354	0
繰越収支差額	△ 1,216	△ 1,528	311
翌年度繰越収支差額	△ 1,216	△ 1,528	311
純資産の部合計	16,097	15,704	393
負債及び純資産の部合計	18,712	18,488	223

資産の部

【固定資産】156億63百万円（前年度比△1億92百万円）

有形固定資産（86億14百万円、前年度比△2億29百万円）については、オルチン館空調設備改修工事やオムニコート（2面）の整備、中上部H.R教室等のICT化、セキュリティ対策の強化として入退館装置の設置などを計画的に実施しましたが、六甲セミナーハウスの売却や減価償却による資産の減少の影響が大きく、有形固定資産の総額は減少しています。

特定資産（63億50百万円、前年度比+69百万円）については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産は△23百万円減となっていますが、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れが多かったことから、特定資産の総額は増加しています。

その他の固定資産（6億98百万円、前年度比△33百万円）については、教務システムサーバの更新によりソフトウェア増となっているものの、減価償却や除却による減少が多く（△14百万円）、また、繰上返済等による貸与奨学金残高の減少（△18百万円）も資産減の要因となっています。

【流動資産】30億48百万円（+4億16百万円）

未収入金（41百万円、前年度比△22百万円）は、主に退職金財団からの交付金および補助金の期末未収入金で構成されています。本年度は講堂・総務館の耐震改修工事にかかる施設整備費補助金（11百万円）を計上していますが、退職金財団からの期末未収入金が前年度よりも少なかったため、未収入金としては減少しています。一方、資金収支計算書の記述のとおり、現金預金は大幅に増加しています。

負債の部

【固定負債】16億30百万円(△38百万円)

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、短期借入金への振替により長期借入金が増加(△13百万円)しています。割賦購入による長期未払金も短期への振替による減、退職給与引当金は人員構成の変動等に伴う減となっており、固定負債総額も減少しています。

【流動負債】9億84百万円(△1億30百万円)

当初借入額4億20百万円の借入金を完済したことにより短期借入金が増加(△42百万円)しました。また、前年度は例年よりも3月実施の工事未払金等が大幅に増加していましたが、今年度は例年並みとなったため、流動負債合計額は減少しています。

純資産の部

【基本金】173億14百万円(+81百万円)

第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の用に供されるものや、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものであり、本年度は、六甲セミナーハウスの売却(△97百万円)や除却による取崩要因があったものの、借入金の返済(55百万円)や前年度の期末未払分(39百万円)を支払ったことにより今年度の組入額が増加し、20百万円の増加となりました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、教育振興会等の寄付金の組入れにより61百万円増加しました。

【繰越収支差額】△12億16百万円(+3億11百万円)

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

貸借対照表の推移

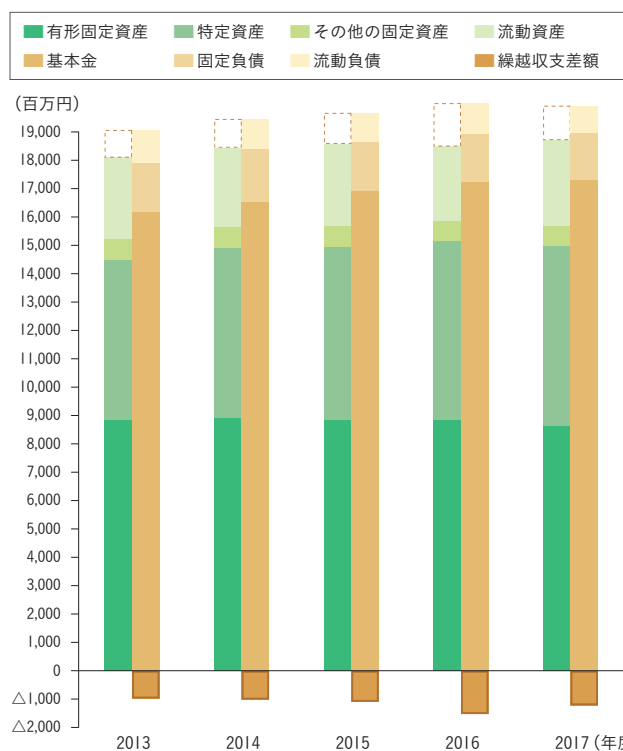
(単位:百万円)

資産の部					
科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
有形固定資産	8,822	8,905	8,828	8,843	8,614
特定資産	5,645	5,976	6,121	6,281	6,350
その他の固定資産	767	744	710	731	698
流動資産	2,857	2,816	2,918	2,632	3,048
合計	18,092	18,443	18,577	18,488	18,712

(単位:百万円)

負債及び純資産の部					
科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
固定負債	1,706	1,856	1,723	1,669	1,630
流動負債	1,175	1,052	1,029	1,115	984
基本金	16,188	16,550	16,920	17,232	17,314
繰越収支差額	△977	△1,016	△1,095	△1,528	△1,216
合計	18,092	18,443	18,577	18,488	18,712

【参考】純資産	15,210	15,534	15,824	15,704	16,097
---------	--------	--------	--------	--------	--------



財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次のとおりです。

(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています。)

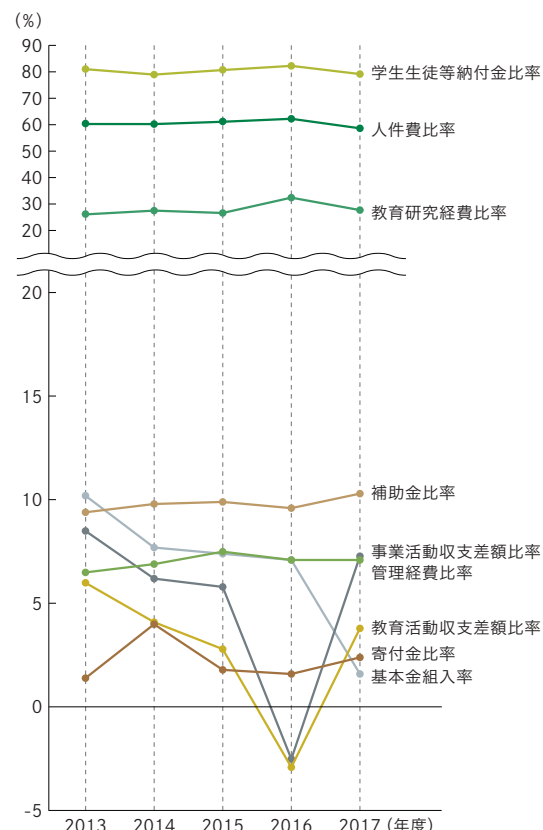
なお、2014年度以前の財務比率については、計算書類を新会計基準ベースに組み替えて算定しています。

事業活動収支計算書関係比率

(単位：%)

比率名	計算式	評価	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	60.4	60.2	61.2	62.2	58.6	53.6	50.4
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	26.2	27.5	26.6	32.4	27.7	33.0	38.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.5	6.9	7.5	7.1	7.1	9.0	7.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	-	81.0	78.9	80.7	82.2	79.1	73.7	47.2
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	1.4	4.0	1.8	1.6	2.4	3.0	1.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.4	9.8	9.9	9.6	10.3	12.3	11.4
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	6.0	4.1	2.8	△ 2.9	3.8	2.7	2.3
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	8.5	6.2	5.8	△ 2.5	7.4	4.9	5.7
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	10.2	7.7	7.4	7.1	1.6	11.8	11.3

- (注) 1. 評価欄は「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」「-：どちらともいえない」を示しています。
 (日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)
 2. 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計
 3. 平均値は2016年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国507大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3千～5千人規模の全国111大学法人の平均値を示しています。

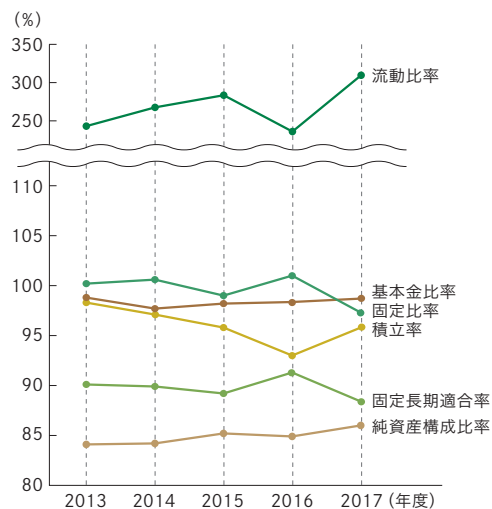


貸借対照表関係比率

(単位：%)

比率名	計算式	評価	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	全国平均	同規模平均
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	243.1	267.6	283.5	236.0	309.6	252.2	322.7
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	100.2	100.6	99.0	101.0	97.3	98.9	94.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	90.1	89.9	89.2	91.3	88.4	91.5	87.5
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	98.8	97.7	98.2	98.3	98.7	97.3	97.6
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	84.1	84.2	85.2	84.9	86.0	87.6	87.4
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	98.3	97.1	95.8	93.0	95.8	78.9	71.2

- (注) 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券
 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金



2018年度事業計画

今後の運営方針及び2018年度事業計画

中高部や法人も含めた本学の主な取り組みのうち、特別予算を中心とした2018年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2018年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取り組みを優先し採択しました。

2018年度重点項目(番号：優先順位)	継続的な注力項目
1. 学修環境の充実	▽ 英語教育の強化
2. 広報	▽ リベラルアーツ教育の整備
3. 国際化の推進	
4. 社会連携の強化	

学修環境の充実

- ・文学部1号館の1教室を改修し、通訳・語学学習を中心に、グループワークも念頭に置いた視聴覚教室として一新します。ICTを利用したグループワークが可能な視聴覚教室の提供により、教育・学習環境の充実と向上を図り、クローバーゼミや試験等にも対応可能な講義室とします。その他、ジュリア・ダッドレー記念館中教室の2教室、エミリー・ブラウン記念館中教室の2教室、デフォレスト記念館大教室の2教室の映像音響設備の更新も実施します。
- ・教育現場で、教員が自由に自分のコンテンツを登録・利用できる映像配信ソフトを導入し、反転授業や教材としての動画活用など、授業で容易に動画を活用できる体制へと整備します。
- ・前回更新から5年経過した図書館システムを更新し、図書館業務のさらなる効率化を図ります。また、図書館利用者も、当館所蔵資料に限らず幅広く資料を検索できるようにします。
- ・新たにデフォレスト館に修学支援室を設け、専門の修学支援担当者が学生の相談に対応できるようにします。
- ・大学内ネットワークシステム、無線アクセスポイント、パソコン教室の情報関連システムおよび機器、教職員および学生用のメールシステム等のサーバシステムの整備・維持管理を継続して実施します。また教育・ネットワークシステムの構築・運用に付随する様々な運用支援と課題解決のための技術支援を受け、安定運用を図っていきます。
- ・クローバーゼミ等の授業でモバイルデバイスを利用することにより学生の学修環境の多様化・充実化を行うため、多様な授業形態に対応できるタブレット端末を整備します。また、キャンパス内での学生の学修を支援するため、無線LANに接続可能なノートパソコンの貸出体制も維持します。
- ・コンピュータ音楽室を、文学部2号館からエミリー・ブラウン記念館に移転し、部屋の拡張等による教育環境の改善を図るとともに、コンビニ前にイートインスペースを確保し、在学生の学修環境向上に努めます。さらに、什器整備や演習用機器等を追加し、音楽学部生だけでなく、オープン科目として他学科学生の受講者増に対応できる体制を整備し、全学的な教育充実を図ります。
- ・高感度発光イメージング解析器を導入し、環境や人体に安全で高感度な検出法にて電気泳動の解析を実施できるようにします。教員の研究に加え、学生実習として「生命の科学実習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」等の授業にも活用していきます。
- ・(中高部) 熱中症の発生を予防するため、2015年度に実施した第二体育館2Fの空調設備工事を1Fフロア全体に拡張します。また、ア

ンジー・クルー記念館の窓に遮熱、紫外線カットフィルムを設置し、冷房効果を高めることで快適に授業を受けられるようにします。

- ・(中高部) タルカット記念館書道教室・美術・工芸教室の流し台を改修し、蛇口数の増加や電気温水器の設置、洗い場の改修等により、学修環境の改善を図ります。

広報

- ・2017年度に実施したブランディングのための施策を展開していきます。2017年度に実施した交通広告の掲出を引き続き行うとともに、2018年度は本学が戦後に新制大学として認可されてから70周年の節目であるため(全国12大学のうちの1校)、卒業生を紹介する新制大学70周年記念誌を発行し、学生、保護者、卒業生、企業等の関係各所に送付します。
- ・大学ホームページについて、「Stories」(卒業生インタビュー)の充実や、学内写真等の素材のストックを増やします。その他、人間科学研究科のホームページリニューアルを行い、引き続き質の高い情報発信に努めます。
- ・神戸女学院ブランド商品について新たなラインアップを考え、参加学生および協力企業とともに商品企画、開発し、その後の販売の実現に向けての活動を行います。現行ブランド商品についても、多くの方に認知してもらえるような効果的な広報活動を展開します。
- ・2015年10月に発行した『重要文化財神戸女学院-ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ』(創立140周年記念版)を一部改訂のうえ増刷し、プロジェクト科目やツアー・マイスター養成講座受講生をはじめとする学生・生徒や学院関係者の理解に役立てるとともに、学院広報資料として活用します。

国際化の推進

- ・「国際化ビジョン」に従って国際交流事業を活性化するため「ワイオミング大学Honorsプログラム」などの短期受入れに加え、現在の交換留学制度を維持するため、2018年度より「日本語&日本文化集中プログラム」(1クール4~5週間)を実施し、日本語の授業数を大幅に拡充します。
- ・派遣留学に必要な英語スコア(TOEFL-iBT、IELTS(アイエルツ)等)を取得するための課外補習講座(1クール30時間以上)の開講や、2015年度より開始したIELTSの学内受験の際の受験料一部補助により、派遣留学を含めた留学者数の増加を図ります。
- ・2019年2月にオーストラリアフィールドスタディを実施し、多文化主義先進国オーストラリアにおける人種差別撤廃政策のアクティブ・ラーニングを通して日本における状況を再考する機会を提供します。
- ・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を展開します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。

社会連携の強化

- ・「戦略的人生設計への試み」として、主体的・戦略的に活躍している女性を学外から招聘し、講演会、対談、メンタリングを通して、グローバル企業(外資系)のインターンシップに自主的に応募し企業内研修を進んで体験するといった積極的な学生を増やす試みを行います。
- ・「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」を開催し、定期演奏会では、4年ごとの演目である『第九』を演奏します。また、大学間協定並びに交換留学協定を締結する米国テキサス州のサムヒューストン州立大

2018年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

学との交流プログラム事業として、両大学の学生合同によるオペラを制作し、2018年6月に本学講堂にて両大学合同による歌劇「ディドとエネアス」のオペラ公演を行います。

英語教育の強化

- ・英文学科以外の学生にも4年間を通してTOEICを受験する機会を与えるため、2年生後期～4年生の全学科学生を対象に、受験料の一部補助によるIP-TOEIC (L/R) を実施します。また、英語能力が高い学生の受験希望のあるTOEIC (S/W) テストについても受験料の一部を補助するなど、TOEICを勉強するモチベーション維持とスコアアップを支援します。
- ・英文学科以外のTOEICの伸び率は、外国語学科以外の学科では類を見ないほどの伸びを達成しており、さらなるスコアアップを支援すべく、講習会受講料の一部を補助します。
- ・英文学科以外の1年生の後期にOsaka English Village (体験型英語教育施設) への参加を義務づけ、英語アレルギーを取り払い、英語学習のモチベーションアップを目指します。また、2014年度から実施している「英語手帳」を使った学習も継続します。

その他

【学生生徒支援】

- ・「就職率向上のための支援講座」「フロントランナー育成のための特別講座」「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育およびキャリア支援活動の充実を図ります。

【セキュリティ】

- ・セキュリティ強化のため、警備員を増員し、西門に門衛所を設置します。また、デフォレスト記念館、総務館のほか、重要文化財や学生の利用度が高い建物に順次入退館装置を設置します。

【管理】

- ・重要文化財各棟については、経年により外壁や建具が劣化し損傷が見られるため、重要文化財の保存を目的として、特に劣化が進んでいる理学館、総務館、図書館、文学館の4棟について、2020年度に亘り美装化工事を実施します。また、タルカット館の北面のサッシ等を改修します。
- ・2017年度より実施している講堂・総務館耐震改修工事を継続して実施し、安全の確保に努めます。
- ・デフォレスト記念館、中高部1号館、第二体育館等の改修を行い、トイレ・シャワーの整備を進めます。
- ・通行時の安全性向上や防犯の強化を目的に、通行量の多い正門からデフォレスト館までの区間において既存街路灯のLED化や足元灯を増設し、キャンパス内街路灯を整備します。また、キャンパス内の樹木を整備し、キャンパス内および敷地境界沿いの公道の安全性の確保、美観の維持に努めます。
- ・中高部1号館ロッカー室除湿対策、中高部1号館給水配管改修、第二体育館2階南側入口引戸改修、高圧設備機器精密点検・高圧設備機器取替など、老朽化や不具合への対応を図ることで、安全かつ快適に学修できる環境を整えます。
- ・会計ソフトのバージョンアップを行い、システムの安定稼働を図ります。また、旅費規程の見直しと合わせて旅費精算システムを導入することにより、旅費精算事務の効率化の実現に向けた作業を進めます。

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,144
		手数料	91
		寄付金	58
		経常費等補助金	448
		付随事業収入	65
		雑収入	162
		教育活動収入計	4,969
	事業活動支出の部	人件費	3,092
		教育研究経費	1,523
		管理経費	352
徴収不能額等		-	
教育活動支出計	4,967		
教育活動収支差額			1
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	41
		その他の教育活動外収入	-
		教育活動外収入計	41
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	-
		教育活動外支出計	0
	教育活動外収支差額		
経常収支差額			41
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	-
		その他の特別収入	60
		特別収入計	60
	事業活動支出の部	資産処分差額	8
		その他の特別支出	-
		特別支出計	8
特別収支差額			52
基本金組入前当年度収支差額			94
基本金組入額合計			△ 157
当年度収支差額			△ 62

(参考)

事業活動収入計	5,070
事業活動支出計	4,976

数字で見る神戸女学院

長い歴史の中で育まれてきた魅力を数字で見ると…

大学 THE世界大学ランキング日本版

■教育充実度 関西の私立女子大学では

■国際性 関西の私立女子大学では

2位 & 3位

「世界大学ランキング」を発表しているイギリスの教育専門誌 *Times Higher Education (THE)* による日本版ランキングで、グローバル人材育成の取り組みや、外国語での授業比率などが評価されました。

中高部 生徒が私服で登校し始めてから

142年



1875年、学校設立以来ずっと、自由な校風の象徴として制服は採用されていません。



大学 新制女子大学として認可されてから

70周年

1947年に制定された学校教育法のもと、翌年に最初の新制大学として認可された11大学の一つが神戸女学院大学です。

全体 キャンパスが育む生き物

岡田山という自然豊かな里山を、そのままキャンパスにした神戸女学院。四季折々の美しい風景を見せるこの森には、多くの貴重な動植物が生息し、自然学習の場としても活用されています。

野生植物 600種 敷地面積 14ha

野鳥 100種 森の割合 35%

昆虫 1,000種以上

大学 留学先協定校の数

101校



※日本スタディ・アブロード・ファンデーション (JSAF) 協定校を含む

協定校は、世界30ヵ所以上に拡大。英文学科だけでなく全学科の学生が毎年100人以上海外に旅立ち、学びを深めています。

校地・校舎

・岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,964.01 m²



- 1 正門
 - 2 音楽学部1号館
 - 3 音楽学部2号館
 - 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
 - 5 エミリー・ブラウン記念館
 - 6 文学部1号館
 - 7 文学部2号館
 - 8 デフォレスト記念館
 - 9 図書館本館
 - 10 理学館
 - 11 総務館・講堂・ソールチャペル
 - 12 文学館
 - 13 理学館別館・心理相談室
 - 14 社交館
 - 15 新社交館
 - 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
 - 17 第一体育館
 - 18 第二体育館
 - 19 第三体育館
 - 20 テニスコート
 - 21 購買部
 - 22 シェイクスピア・ガーデン
 - 23 図書館新館
 - 24 ジュリア・ダッドレー記念館
 - 25 エッジウッド館
 - 26 ケンウッド館
 - 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
 - 28 岡田山ロッジ
 - 29 大学クローバー館(クラブハウス)
 - 30 茶室(松風庵)
 - 31 ミリアム館
 - 32 汽罐室と煙突
 - 33 アンジー・クルー記念館
 - 34 コミュニケーションセンター
 - 35 葆光館(中高部)
 - 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
 - 37 タルカット記念館
 - 38 めぐみ会館(同窓会館)
 - 39 Kobe College International Students House
- は重要文化財

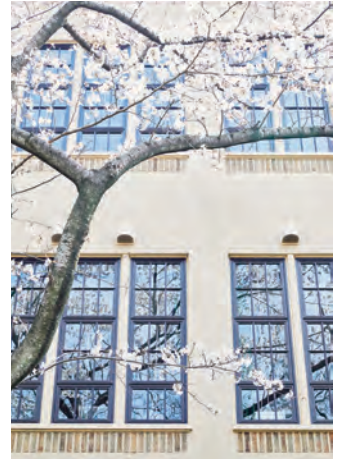
・東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8番7号

敷地面積 367.46 m²

タルカット記念館

創立100周年記念事業として1979年に竣工し、創立者タルカット先生のお名前をいただいた中高部校舎には、芸術、理科、家庭などの科目の専用教室が設けられています。



 学校法人 神戸女学院

〒662-8505 西宮市岡田山4番1号

電話 0798-51-8508 (経理課)

<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>